

平成 27 年度
松本市民満足度調査
報告書

平成 27 年度

松 本 市

目 次

1. 調査概要	5
(1) 調査の目的.....	5
(2) 調査の実施方法.....	5
(3) アンケート用紙回収結果.....	6
2. 回答者属性	7
(1) 回答者属性.....	7
①性別.....	7
②年齢.....	7
③家族構成.....	7
④居住年数.....	9
⑤居住地区.....	9
(2) 受益対象者を把握する項目.....	10
①同居している子ども.....	10
②同居している孫.....	10
③障害者手帳交付者／介護サービス利用者（同居家族）.....	10
3. 施策評価の方法	11
(1) 集計方法.....	11
①平均点化の方法.....	11
②単純集計.....	11
(2) 分析の視点.....	12
4. 施策に対する評価結果	13
(1) 基本目標1 だれもが健康でいきいきと暮らすまちについて.....	14
①経年での比較.....	14
②今年度調査結果.....	18
(2) 基本目標2 一人ひとりが輝き大切にされるまちについて.....	19
①経年での比較.....	19
②今年度調査結果.....	24
(3) 基本目標3 安全・安心で支えあいの心がつなぐまちについて.....	26
①経年での比較.....	26
②今年度調査結果.....	33
(4) 基本目標4 人にやさしい環境を保全し自然と共生するまちについて.....	35
①経年での比較.....	35
②今年度調査結果.....	39
(5) 基本目標5 魅力と活力にあふれにぎわいを生むまちについて.....	41
①経年での比較.....	41
②今年度調査結果.....	44
(6) 基本目標6 とともに学びあい人と文化を育むまちについて.....	45

①経年での比較.....	45
②今年度調査結果.....	50
(7) 行政について.....	52
①経年での比較.....	52
②今年度調査結果.....	54
5. 総合的な満足度と居住継続意向に対する評価結果	55
(1) 松本市での暮らしに対する満足度.....	56
①経年での比較.....	56
②今年度調査結果.....	57
(2) 松本市での将来的な居住継続意向.....	59
①経年での比較.....	59
②今年度調査結果.....	60
6. 総括	62
(1) 今年度調査における基本施策ごとの評価結果まとめ.....	63
(2) 経年の調査結果を踏まえた総括.....	64
①過去4年間の調査結果との比較.....	64
7. 若年層を対象とした暮らし・コミュニティ等に関する調査結果	70
(1) 若年層を対象とした暮らし・コミュニティ等に関する調査結果.....	71
①若年層を対象とした調査項目について.....	71
②調査結果.....	71

1. 調査概要

(1) 調査の目的

本調査は「松本市総合計画（第9次基本計画 [平成23～27年度]）」をもとに本市が実施している各分野の施策について、市民の現状認識や自身の行動について測ることによって、評価することを目的に実施した。なお、本調査は平成24年から平成29年まで継続的に実施し、各施策の進捗状況を継続的に把握する設計としている。平成27年度は4年目であり、3カ年分の結果とも比較し、集計分析を行う。

(2) 調査の実施方法

■調査対象者：松本市在住の20歳以上の男女

■抽出方法：無作為抽出

■調査方法：返信用封筒を同封した、質問票送付によるアンケート調査形式

本調査は、年間2回実施しており、本書では2回分の調査結果を合わせて分析を行う。

■対象数：2,400名（1,200名×2回）

■実施期間：第1回 平成27年10月23日（金）～11月13日（金）

第2回 平成28年1月8日（金）～1月27日（水）

■調査項目：

今年度は過去に実施している調査項目に加えて、20～39歳を対象にした暮らし・地域等に関する設問を設定した。

① 回答者属性

※20～39歳には「出身地」、「結婚の状況」、「最終学歴」、「行動特性」の項目を追加している。

② 松本市での暮らしについて

③ 受益対象者を把握する項目

④ 6つの基本目標からなる基本施策の評価

- ・だれもが健康でいきいきと暮らすまち
- ・一人ひとりが輝き大切にされるまち
- ・安全・安心で支えあいの心がつなぐまち
- ・人にやさしい環境を保全し自然と共生するまち
- ・魅力と活力にあふれにぎわいを生むまち
- ・ともに学びあい人と文化を育むまち

⑤ 行政に対する評価

⑥ 地域コミュニティ・暮らし、子育て、仕事について

※20～39歳のみの調査項目となっている。

⑦ 松本市の生活について【自由記述】

※40歳以上のみの調査項目となっている。

(3) アンケート用紙回収結果

	第 1 回	第 2 回	合計
回収数	699 件	656 件	1,355 件
回収率	58.3%	54.7%	56.5%
無回答	1 件	0 件	1 件
有効回答数	698 件	656 件	1,354 件

※本書の注意点

図表中の割合は、小数点第 2 位を四捨五入した数値であるため、合計値が 100%にならない場合がある。

【参考】

平成 26 年度の回収状況

- 実施期間 : 第 1 回 平成 26 年 7 月 11 日 (金) ~ 8 月 8 日 (金)
第 2 回 平成 27 年 1 月 21 日 (水) ~ 2 月 20 日 (金)

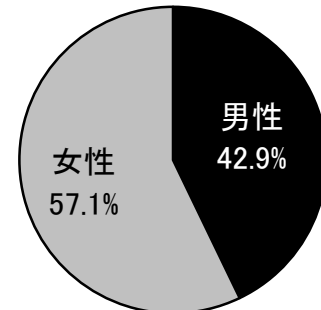
	第 1 回	第 2 回	合計
回収数	529 件	688 件	1,217 件
回収率	44.1%	57.3%	50.7%
無回答	1 件	2 件	3 件
有効回答数	528 件	686 件	1,214 件

2. 回答者属性

(1) 回答者属性

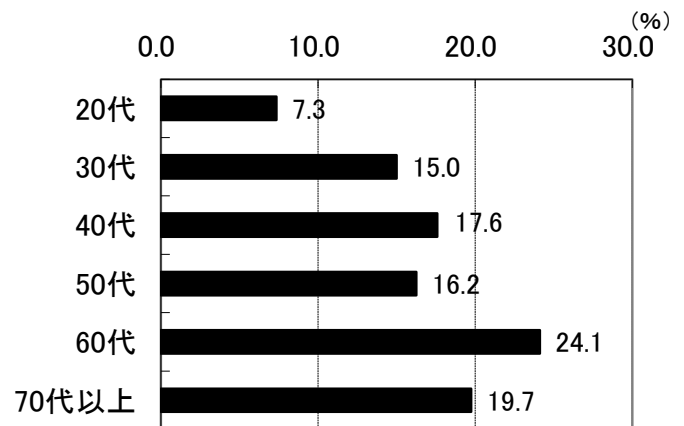
①性別

	人数	割合(%)
男性	576	42.9
女性	768	57.1
合計	1,344	100.0



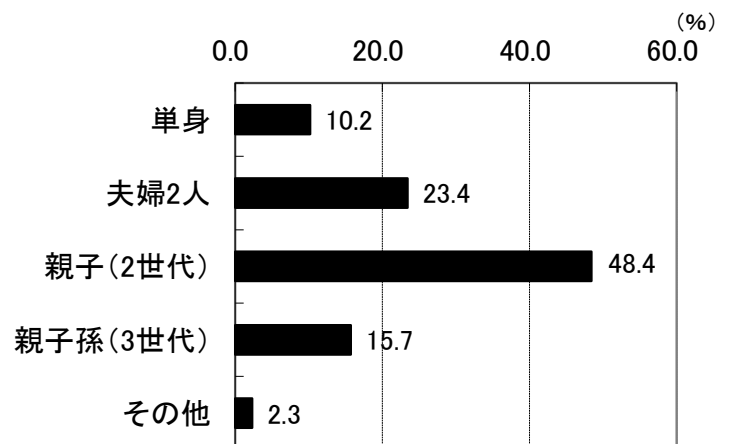
②年齢

	人数	割合(%)
20代	99	7.3
30代	202	15.0
40代	237	17.6
50代	219	16.2
60代	325	24.1
70代以上	266	19.7
合計	1,348	100.0



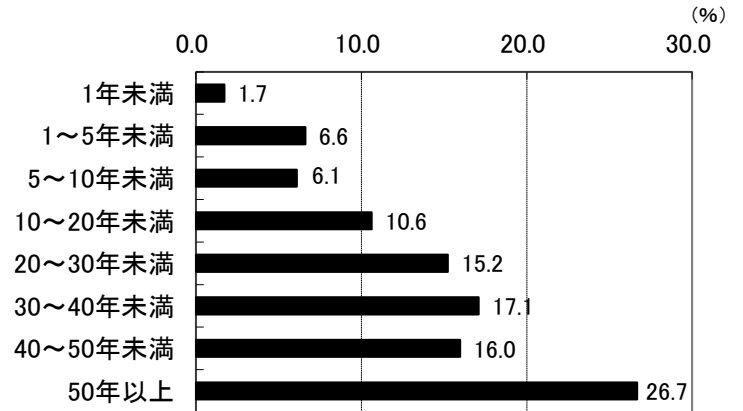
③家族構成

	人数	割合(%)
単身	136	10.2
夫婦2人	313	23.4
親子(2世代)	647	48.4
親子孫(3世代)	210	15.7
その他	31	2.3
合計	1,337	100.0



④居住年数

	人数	割合(%)
1年未満	23	1.7
1～5年未満	89	6.6
5～10年未満	82	6.1
10～20年未満	143	10.6
20～30年未満	205	15.2
30～40年未満	230	17.1
40～50年未満	215	16.0
50年以上	359	26.7
合計	1,346	100.0



⑤居住地区

	人数	割合(%)
第一地区	12	0.9
第2地区	18	1.4
第3地区	23	1.8
東部地区	11	0.9
中央地区	18	1.4
城北地区	43	3.3
安原地区	21	1.6
城東地区	23	1.8
白板地区	24	1.9
田川地区	16	1.2
庄内地区	65	5.0
鎌田地区	108	8.4
松南地区	42	3.3
島内地区	60	4.7
中山地区	31	2.4
島立地区	43	3.3
新村地区	16	1.2
和田地区	17	1.3

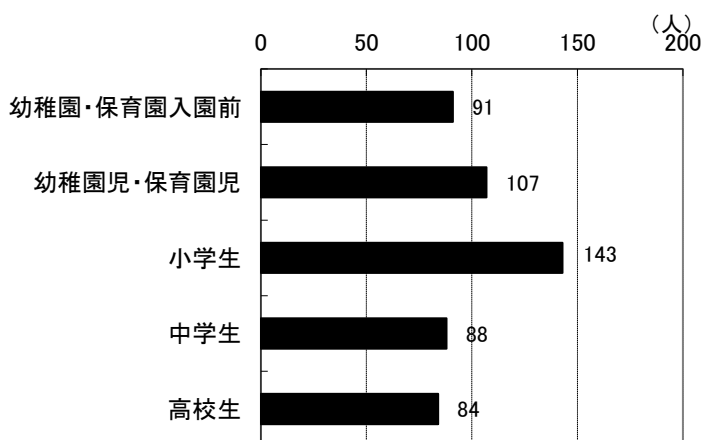
	人数	割合(%)
神林地区	29	2.2
笹賀地区	60	4.7
芳川地区	94	7.3
寿地区	91	7.1
松原地区	17	1.3
寿台地区	11	0.9
岡田地区	40	3.1
入山辺地区	11	0.9
里山辺地区	71	5.5
今井地区	16	1.2
内田地区	15	1.2
本郷地区	63	4.9
安曇地区	10	0.8
奈川地区	3	0.2
梓川地区	74	5.7
四賀地区	28	2.2
波田地区	66	5.1
合計	1,290	100.0

(2) 受益対象者を把握する項目

この項目は「子育て」や「小中学校における教育」、「高齢者福祉」、「障害者福祉」など、サービスの受益者が限定的な施策の対象者を把握するために設定した。

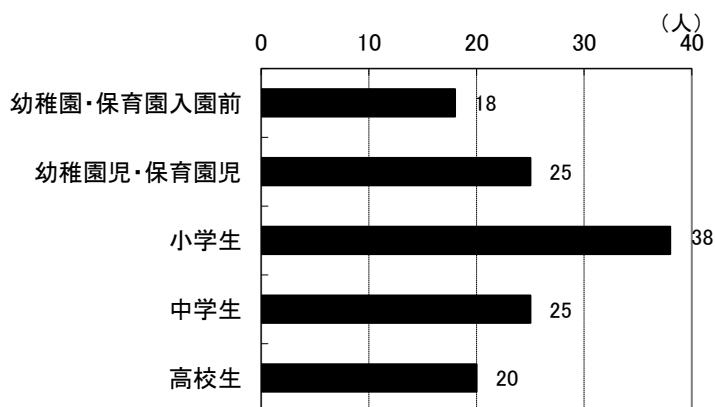
①同居している子ども

	回答数
幼稚園・保育園入園前	91
幼稚園児・保育園児	107
小学生	143
中学生	88
高校生	84



②同居している孫

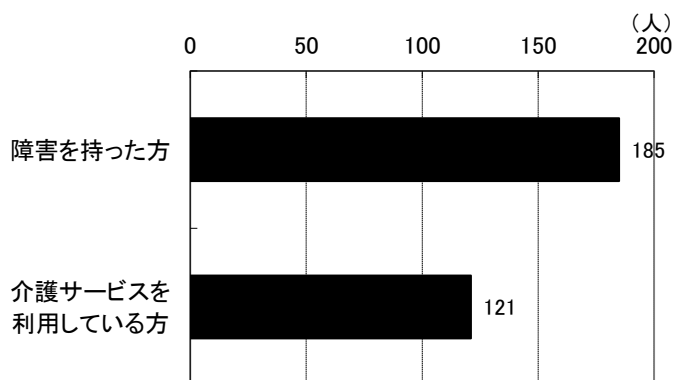
	回答数
幼稚園・保育園入園前	18
幼稚園児・保育園児	25
小学生	38
中学生	25
高校生	20



③障害者手帳交付者／介護サービス利用者（同居家族）

※施設に入居している家族を含む

	回答者数
障害を持った方	185
介護サービスを利用している方	121



3. 施策評価の方法

(1) 集計方法

集計方法は、各施策の評価結果を「平均点化」する集計を中心に行う。これによって、調査結果を単純化するとともに、経年変化の把握を行なうことができる。また、補足的に選択肢ごとの回答数を示す「単純集計」を行なうことで、回答の分布状況を明らかにする。

「平均点化」と「単純集計」の算出方法は以下のとおりである。

①平均点化の方法

平均点は、「そう思う」～「そう思わない」にそれぞれ4点～1点の点数を与え、その点数の総和を回答数で除すことによって算出した。その際、判断の保留を意味する「わからない」や「無回答」が評価に影響を与えないように、計算式からは除外した。

1) アンケート回答の得点化

「松本市の現状」に関する設問の場合	「市民の行動」に関する設問の場合
そう思う → 4点	当てはまる → 4点
ややそう思う → 3点	やや当てはまる → 3点
あまりそう思わない → 2点	あまり当てはまらない → 2点
そう思わない → 1点	当てはまらない → 1点

得点化により中央値は 2.5 となる。中央値は、平均点の高低を判断する際の基準値とする。平均点が中央値より高い場合は肯定的な評価者が多く、中央値以下の場合には否定的な評価者が多いとみることができる。

2) 平均値の算出方法

回答者A 4点	} $\frac{4点 + 3点 + 2点 + 3点 + 2点 + \dots + X点}{\text{回答者の人数}}$	↓ 平均値
回答者B 3点		
回答者C 2点		
回答者D 3点		
回答者E 2点		
・・・		
回答者X X点		

平均値は回答の「中心傾向」を表す。中心傾向とは、回答者の多くがどのような評価に集中していたかを意味する。本書では、市民の意見をよりわかりやすい形で確認できるよう、平均値を用いる。

②単純集計

単純集計では、「当てはまる」～「当てはまらない」、「わからない」等の各選択肢に対する回答者数の比率を算出する。単純集計からは、当該施策に対する市民の評価の分布を把握することが可能である。

(2) 分析の視点

本調査は、2つの視点で分析を行った。ひとつは、施策に対する評価や市民の行動の変化を経年で把握することである。もうひとつは、今年度における評価結果および今年度内での評価の差を把握することである。以下に、それぞれの分析の視点をまとめる。

視点 1:経年での比較

平成 26 年度と平成 27 年度の調査結果を比較し、その評価の変化を把握する。経年での比較にあたっては、以下の 4 つの視点から分析を行う。

また総括として、今年度も含めた 4 回の調査結果から各調査項目の傾向を抽出する。

①平均点による経年比較

施策ごとに平均点を出し、年度ごとにその変化を比較する。平均点が大きく変化しているような場合は、施策のプラスもしくはマイナスのアウトカムが発生しているといえる。

②評価保留の割合の経年比較

施策ごとに評価保留の割合（「わからない」と回答した割合）を出し、年度ごとにその変化を比較する。評価保留の割合が大きく変化しているような場合は、施策の周知が進んだか、もしくは対象者が増加したが周知されていないことを示している。

③市民全体と受益者の評価の経年比較

「子育て」や「小中学校における教育」、「高齢者福祉」、「障害者福祉」など、サービスの受益者が限定される施策については、受益者と市民全体の評価をそれぞれ示し、その経年の変化を把握する。

④「市の現状」と「市民の行動」の経年比較

本調査では、各施策について、「市の現状」の評価と「市民の行動」の変化について、可能なものについては両方の設問を設けている。「市の現状」と「市民の行動」の差をそれぞれ示し、その経年変化を把握する。

視点 2:20～39 歳対象設問の調査結果

①評価施策別度数分布

各施策の評価分布の把握を行う。

②今年度を実施した調査間の差

本調査では、調査時期による評価結果のブレを確認するため、年度内に同じ項目を用いて、複数回調査を実施している。調査結果にブレ（差）があるかについては、統計的検定を行うことにより、明らかにしている。

ここでいう「統計的検定」とは、調査間において、統計的に有意な差があるかを検定することで、有意な差があると判断された場合は、調査間において母集団に影響を及ぼす何かが発生したと推測される。

4. 施策に対する評価結果



(1)基本目標1 だれもが健康でいきいきと暮らすまちについて

本市では、だれもが心も体も健康で、住み慣れた地域で心豊かに暮らすことができるよう、安らぎと潤いのあるまちづくりを進めている。

①経年での比較

1) 平均点による経年比較

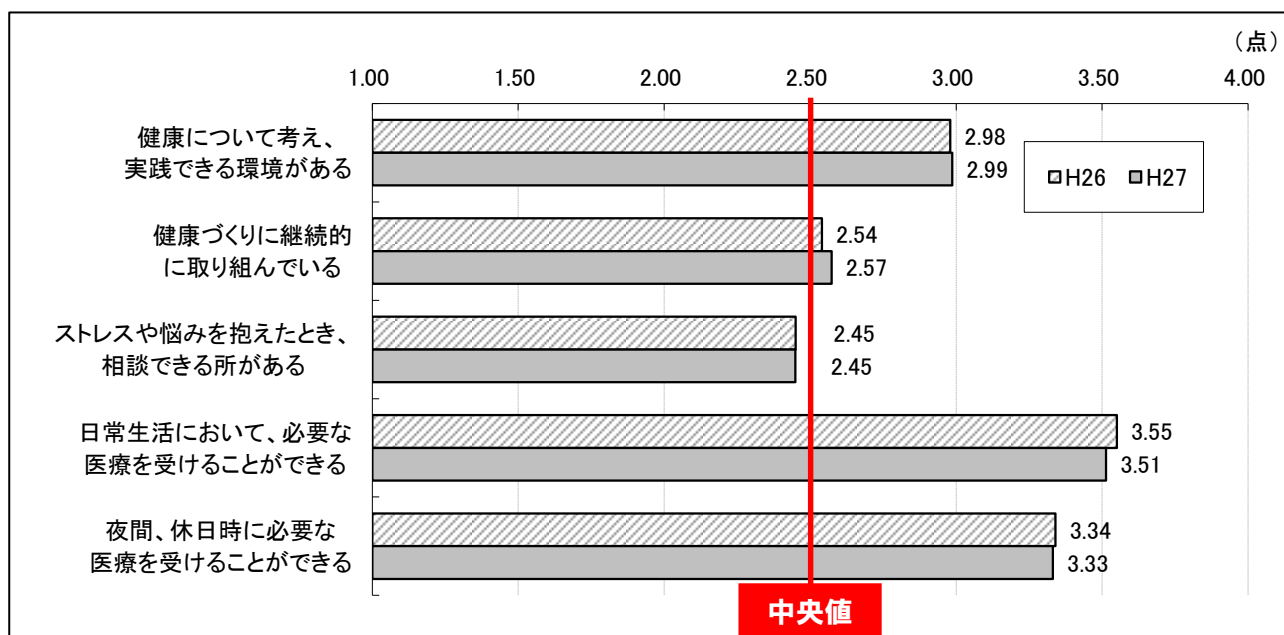
■評価結果■

- ・平成 26 年度の調査と、傾向は概ね変わっていない。
- ・「日常生活にー」は平成 26 年度と比較して、ごくわずかではあるが減少傾向にある。

政策の方向 (まちの姿)	基本施策 (個別目標)	調査項目	平均点		
			H27 年	H26 年	差 H27-H26
1-1 健康を大切に するまち	1-1-1 健康づくりの推進	【市】健康について考え、実践できる環境がある	2.99	2.98	0.01
		【市民】健康づくりに継続的に取り組んでいる	2.57	2.54	0.03
	1-1-2 心の健康、生きがいがづくりの推進	ストレスや悩みを抱えたとき、相談できる所がある	2.45	2.45	0.00
1-2 いつでも医療 が受けられる まち	1-2-1 地域医療の充実	日常生活において、必要な医療を受けることができる	3.51	3.55	-0.04
	1-2-2 救急医療の充実	夜間、休日時に必要な医療を受けることができる	3.33	3.34	-0.01
	1-2-3 国民健康保険の安定運営	サービスに差がない項目であるため、調査項目を設定しなかった			

※ 平均点の網掛けは中央値 2.5 未満の項目

※ 【市】は松本市の現状を聞いた項目、【市民】は市民の行動を聞いた項目



2) 評価保留の割合の経年比較

■評価結果■

- ・「ストレスー」は、平成 26 年度からやや改善しているものの、約 3 割の市民が「わからない」と回答している。これまで以上に、ストレスや悩みを抱えた際の相談窓口の周知を図る必要がある。
- ・「健康について考え、実践できるー」、「日常生活にー」、「夜間、休日時にー」の項目はわずかではあるが、それぞれ 1 ポイント以上「わからない」回答者が減少している。引き続き、周知や体制整備にあたっていくことでさらなる改善が可能であると考えられる。

政策の方向 (まちの姿)	基本施策 (個別目標)	調査項目	評価保留の割合 (%)		
			H27 年	H26 年	差 H27-H26
1-1 健康を大切に するまち	1-1-1 健康づくりの推進	【市】健康について考え、 実践できる環境がある	13.9	15.6	-1.68
		【市民】健康づくりに継続 的に取り組んでいる	3.35	2.87	0.48
	1-1-2 心の健康、生きがいづくりの推進	ストレスや悩みを抱えたと き、相談できる所がある	26.69	27.64	-0.95
1-2 いつでも医療 が受けられる まち	1-2-1 地域医療の充実	日常生活において、必要な 医療を受けることができる	2.31	3.46	-1.15
	1-2-2 救急医療の充実	夜間、休日時に必要な医療 を受けることができる	5.69	7.21	-1.52
	1-2-3 国民健康保険の安定運営	サービスに差がない項目であるため、 調査項目を設定しなかった			

※【市】は松本市の現状を聞いた項目、【市民】は市民の行動を聞いた項目

3) 市民全体と受益者の評価の経年比較

基本目標 1 「だれもが健康でいきいきと暮らすまち」では、受益者を限定する施策はない。

4) 「市の現状」と「市民の行動」の経年比較

基本目標1「だれもが健康でいきいきと暮らすまち」の中で、「市の現状」と「市民の行動」の両方を設定している項目は、「1-1-1 健康づくりの推進」であり、結果は以下のとおりである。

■評価結果■

- ・「市の現状」、「市民の行動」に対する評価は、ともに平成26年度とほぼ同水準である。
- ・市の現状と市民の行動の差はわずかではあるが、縮まっている。

1-1-1 健康づくりの推進

		H27年	H26年
市の現状	健康について考え、実践できる環境がある	2.99	2.98
市民の行動	健康づくりに継続的に取り組んでいる	2.57	2.54
差	【市の現状】－【市民の行動】の差	0.42	0.44

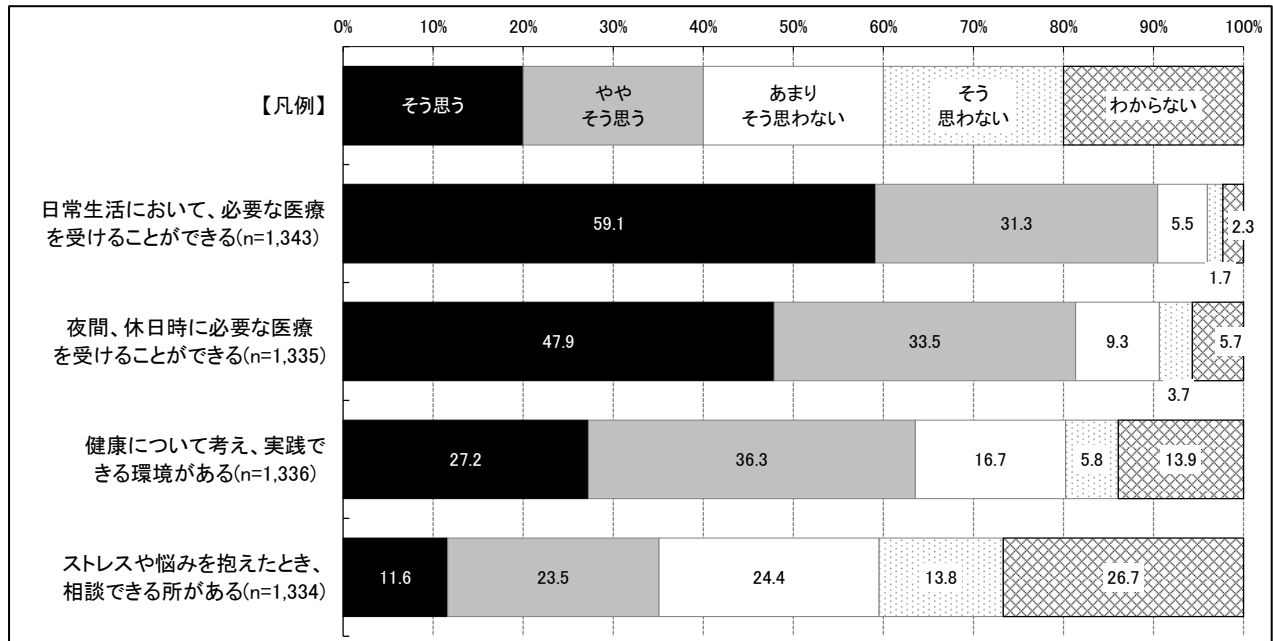
②今年度調査結果

1) 評価施策別度数分布

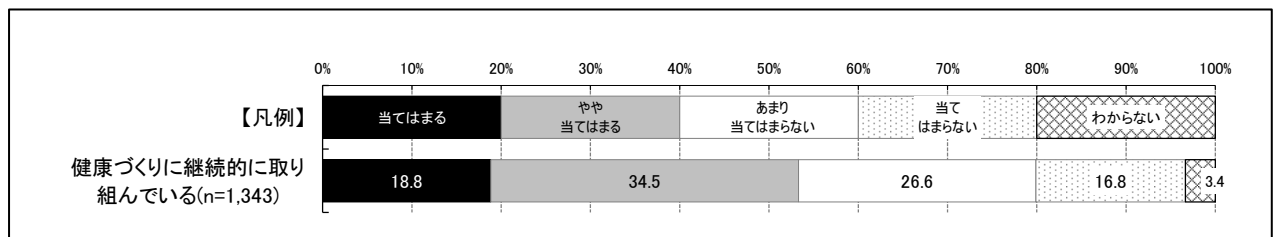
■評価結果■

- ・「日常生活にー」は約9割の市民が、「夜間、休日にー」は、約8割の市民が肯定的に評価している。
- ・「ストレスー」に関しては、肯定的な評価は35.1%、最も多い回答は「わからない」であった。

【松本市の現状】



【市民の行動】



2) 今年度実施した調査間の差

基本目標1「だれもが健康でいきいきと暮らすまち」において、第1回、第2回調査で、統計的有意差がみられた項目はなかった。

(2)基本目標2 一人ひとりが輝き大切にされるまちについて

本市では、一人ひとりが人として尊重され、質の高い暮らしを続けることができるよう、自助、共助、公助が調和するまちづくりを進めている。

①経年での比較

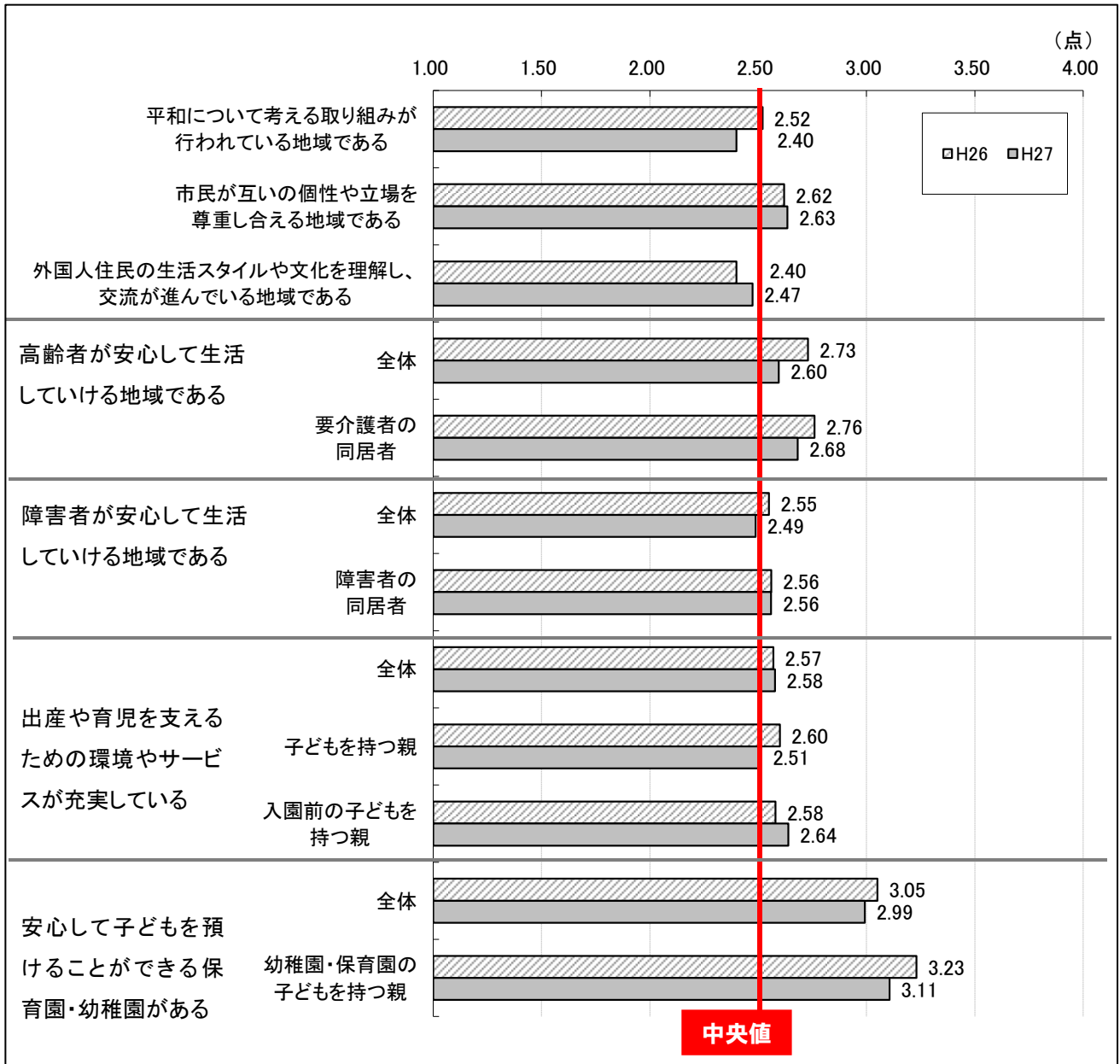
1) 平均点による経年比較

■評価結果■

- ・基本目標2「一人ひとりが輝き大切にされるまち」の項目の中で、中央値2.5未満の項目は「戦争の悲惨さやー」、「外国人住民のー」、「障害者が安心してー（全体）」であった。「外国人住民ー」は平成26年度も中央値未満であったが、それ以外の2つは今年度2.5未満となっている。
- ・平均点でみると、「戦争の悲惨さやー」、「高齢者が安心してー（全体）」、「安心して子どもをー（保育園・幼稚園の子どもを持つ親）」で平成26年度よりやや減少傾向にある。「戦争の悲惨さやー」、「高齢者が安心してー（全体）」は昨年度より設問表現を変更したことにより、回答保留の割合が減少し、評価者が増加したためと考えられる。「安心して子どもをー（保育園・幼稚園の子どもを持つ親）」については減少傾向ではあるが、平均点が3以上で推移しており、一定の評価を得ていると考えられる。

政策の方向 (まちの姿)	基本施策 (個別目標)	調査項目	平均点			
			H27年	H26年	差 H27-H26	
2-1 平和、人権を 尊重するまち	2-1-1 平和意識の向上	戦争の悲惨さや平和の尊さを伝えるなど、 平和について考える取り組みが行われてい る地域である	2.40	2.52	-0.12	
	2-1-2 人権尊重の推進	市民が互いの個性や立場を尊重し合える 地域である	2.63	2.62	0.01	
	2-1-3 多文化共生の推進	外国人住民の生活スタイルや文化への理 解が進んでいる地域である	2.47	2.40	0.07	
2-2 安定した暮ら しを続けられ るまち	2-2-1 高齢者福祉の充実	高齢者が安心して生活し ていける地域である	要介護者の同居者	2.68	2.76	-0.08
		(全体)	2.60	2.73	-0.13	
	2-2-2 障害者(児)福祉の 充実	障害者が安心して生活し ていける地域である	障害者の同居者	2.56	2.56	0.00
		(全体)	2.49	2.55	-0.06	
2-2-3 生活福祉の充実	極めて限定的な市民にしか回答できないため調査項目を設定しなかつた					
2-3 子育てを応 援するまち	2-3-1 出産・育児支援の 充実	出産や育児を支えるた めの環境やサービスが 充実している	子どもを持つ親	2.51	2.60	-0.09
			入園前の子ども を持つ親	2.64	2.58	0.06
	(全体)		2.58	2.57	0.01	
	2-3-3 保育環境の充実		保育園・幼稚園 の子どもを持つ親	3.11	3.23	-0.12
			(全体)	2.99	3.05	-0.06
2-3-4 青少年の健全育成	施策6-1-3と統合					

※ 平均点の網掛けは中央値2.5未満の項目。



2) 評価保留の割合の経年比較

■評価結果■

・全体的に、回答保留の割合は減少傾向にあるが、中でも「戦争の悲惨さやー」、「外国人住民のー」、「障害者が安心してー」は、今年度より設問の文言を変更したこともあり、「わからない」と回答した割合が減少傾向にある。また、「高齢者が安心してー（全体）」も回答保留の割合が減少している。

政策の方向 (まちの姿)	基本施策 (個別目標)	調査項目	評価保留の割合 (%)			
			H27年	H26年	差 H27-H26	
2-1 平和、人権を 尊重するまち	2-1-1 平和意識の向上	戦争の悲惨さや平和の尊さを伝えるなど、 平和について考える取り組みが行われてい る地域である	28.3	30.93	-2.63	
	2-1-2 人権尊重の推進	市民が互いの個性や立場を尊重し合える 地域である	27.46	25.86	1.60	
	2-1-3 多文化共生の推進	外国人住民の生活スタイルや文化への理 解が進んでいる地域である	31.09	36.59	-5.50	
2-2 安定した暮らしを 続けられるまち	2-2-1 高齢者福祉の充実	高齢者が安心して生活し ていける地域である	要介護者の同居者	10.08	10.16	-0.08
		(全体)		18.54	24.83	-6.29
	2-2-2 障害者(児)福祉の 充実	障害者が安心して生活し ていける地域である	障害者の同居者	11.17	13.64	-2.47
		(全体)		26.85	31.15	-4.30
2-2-3 生活福祉の充実	極めて限定的な市民にしか回答できないため調査項目を設定しなかつた					
2-3 子育てを応援するまち	2-3-1 出産・育児支援の 充実	出産や育児を支えるた めの環境やサービスが 充実している	子どもを持つ親	13.10	14.24	-1.14
	2-3-2 子育て環境の充実		入園前の子ども を持つ親	3.37	3.49	-0.12
			(全体)		33.51	35.02
	2-3-3 保育環境の充実	安心して子どもを預ける ことができる保育園・幼 稚園がある	保育園・幼稚園 の子どもを持つ親	1.89	1.35	0.54
	(全体)		28.22	30.5	-2.28	
2-3-4 青少年の健全育成	施策 6-1-3 と統合					

3) 市民全体と受益者の評価の経年比較

基本目標 2「一人ひとりが輝き大切にされるまち」では、受益者を限定する施策は、「2-2-1 高齢者福祉の充実」、「2-2-2 障害者（児）福祉の充実」、「2-3-1 出産・育児支援の充実/2-3-2 子育て環境の充実」、「2-3-3 保育環境の充実」である。

■評価結果■

- ・4項目のうち、「出産や育児をー」で、子どもを持つ親の回答の平均点が、市民全体よりも低い。平成26年度と比較しても平均点が低下している。入園前の子どもを持つ親でみると、平均点は増加傾向にあるため、現在小学生～高校生の子どもを持つ親の子育て環境やサービスへの評価があまり高くないと考えられる。
- ・「安心して子どもをー」については、受益者である幼稚園・保育園の子どもを持つ親は市民全体よりも高く評価する傾向が続いている。

【市民全体と受益者の比較】

2-2-1 高齢者福祉の充実「高齢者が安心して生活していける地域である」

	H27年	H26年
市民全体	2.60	2.73
要介護者の同居者	2.68	2.76
【市民全体】-【要介護者の同居者】の差	-0.08	-0.03

2-2-2 障害者（児）福祉の充実「障害者が安心して生活していける地域である」

	H27年	H26年
市民全体	2.49	2.55
障害者の同居者	2.56	2.56
【市民全体】-【障害者の同居者】の差	-0.07	-0.01

2-3-1 出産・育児支援の充実/2-3-2 子育て環境の充実

「出産や育児を支えるための環境やサービスが充実している」

	H27年	H26年
市民全体	2.58	2.57
子どもを持つ親	2.51	2.60
【市民全体】-【子どもを持つ親】の差	0.06	-0.03

	H27年	H26年
市民全体	2.58	2.57
入園前の子どもを持つ親	2.64	2.58
【市民全体】-【入園前の子どもを持つ親】の差	-0.06	-0.01

2-3-3 保育環境の充実「安心して子どもを預けることができる保育園・幼稚園がある」

	H27年	H26年
市民全体	2.99	3.05
幼稚園・保育園の子どもを持つ親	3.11	3.23
【市民全体】-【幼稚園・保育園の子どもを持つ親】の差	-0.11	-0.18

4) 「市の現状」と「市民の行動」の経年比較

基本目標 2 「一人ひとりが輝き大切にされるまち」では、「市の現状」と「市民の行動」の両方を設定した項目はない。

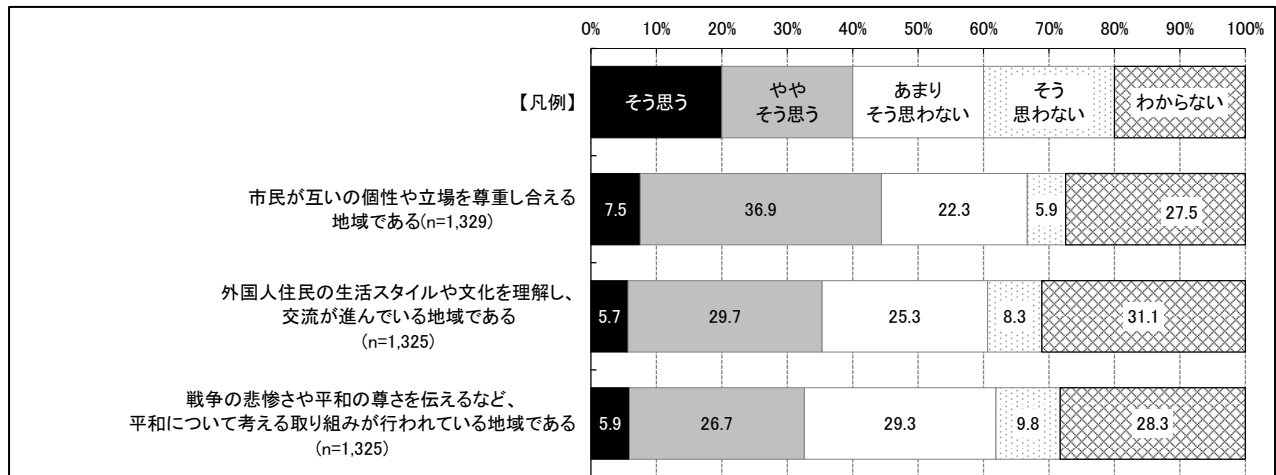
②今年度調査結果

1) 評価施策別度数分布

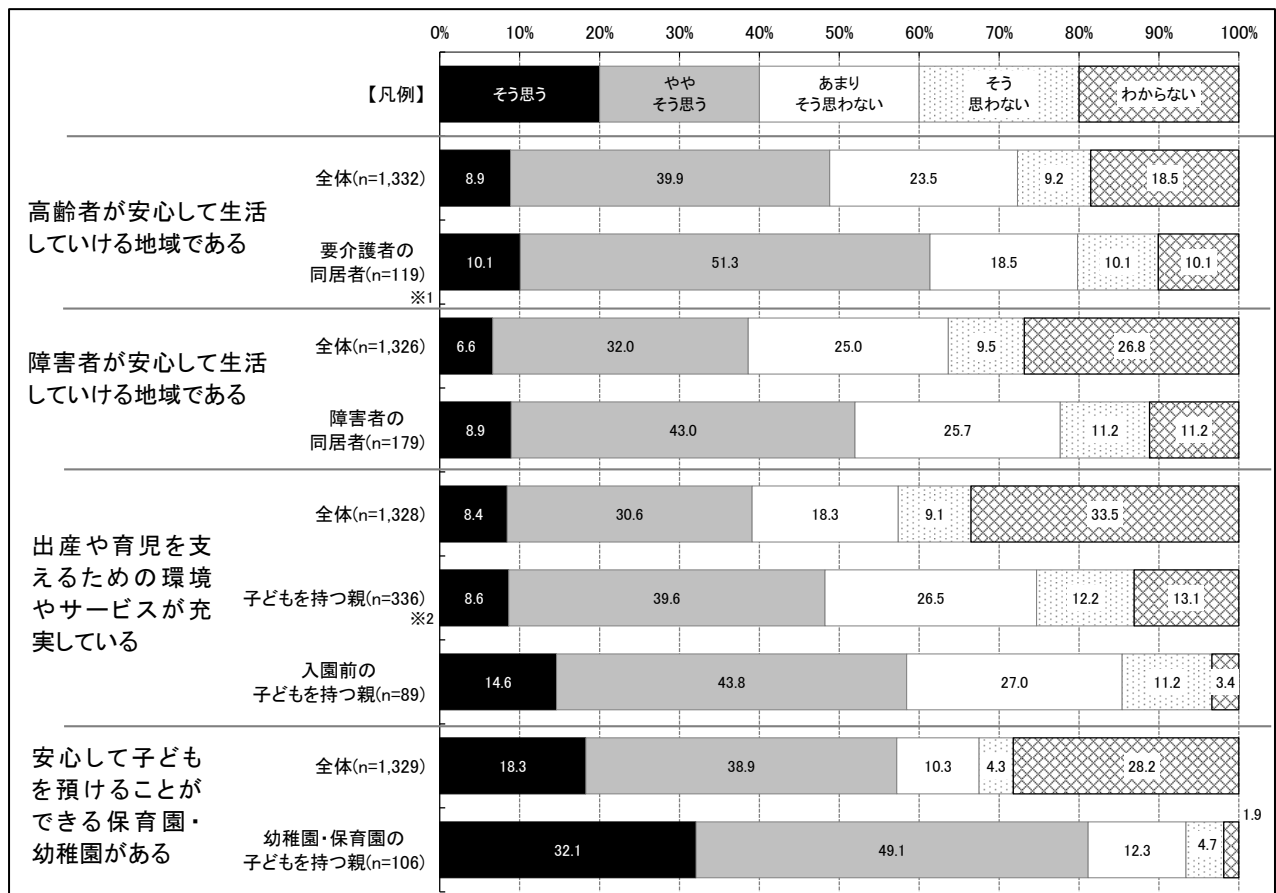
■評価結果■

- ・「外国人住民のー」、「戦争の悲惨さー」は肯定的な評価が30%程度にとどまっている。
- ・3項目とも「わからない」の回答が30%前後に及んでいる。
- ・受益者が限定される項目では、「出産や育児をー」の入園前の子どもを持つ親以外で、肯定的な評価が50%以上となっている。

【松本市の現状】



【松本市の現状（受益者が限定される項目）】



※1) 施設入居者を含む ※2) 高校生以下の子ども

2) 今年度に実施した調査間の差

基本目標2「一人ひとりが輝き大切にされるまち」における、第1回、第2回調査の差があった項目は、「【子どもを持つ親】出産や育児を支えるための環境やサービスが充実している」である。

■評価結果■

- ・「出産や育児を支えるための環境やサービスが充実している」の項目で、子どもを持つ親を対象を限定した場合、第2回目の調査での評価が下がっている。関連する政策やサービスが調査期間の最中に変更になってはおらず、差も大きくはないことから、統計上の誤差の範囲ではないかと考えられる。

	調査時期		平均点差
	1回	2回	
【子どもを持つ親】出産や育児を支えるための環境やサービスが充実している	2.6	2.42	-0.18

(3)基本目標3 安全・安心で支えあいの心がつなぐまちについて

本市では、暮らしを支える社会基盤の充実と、防災・防犯対策により、快適でゆとりある日々を実感できるよう、地域ぐるみで助けあうまちづくりを進めている。

①経年での比較

1) 平均点による経年比較

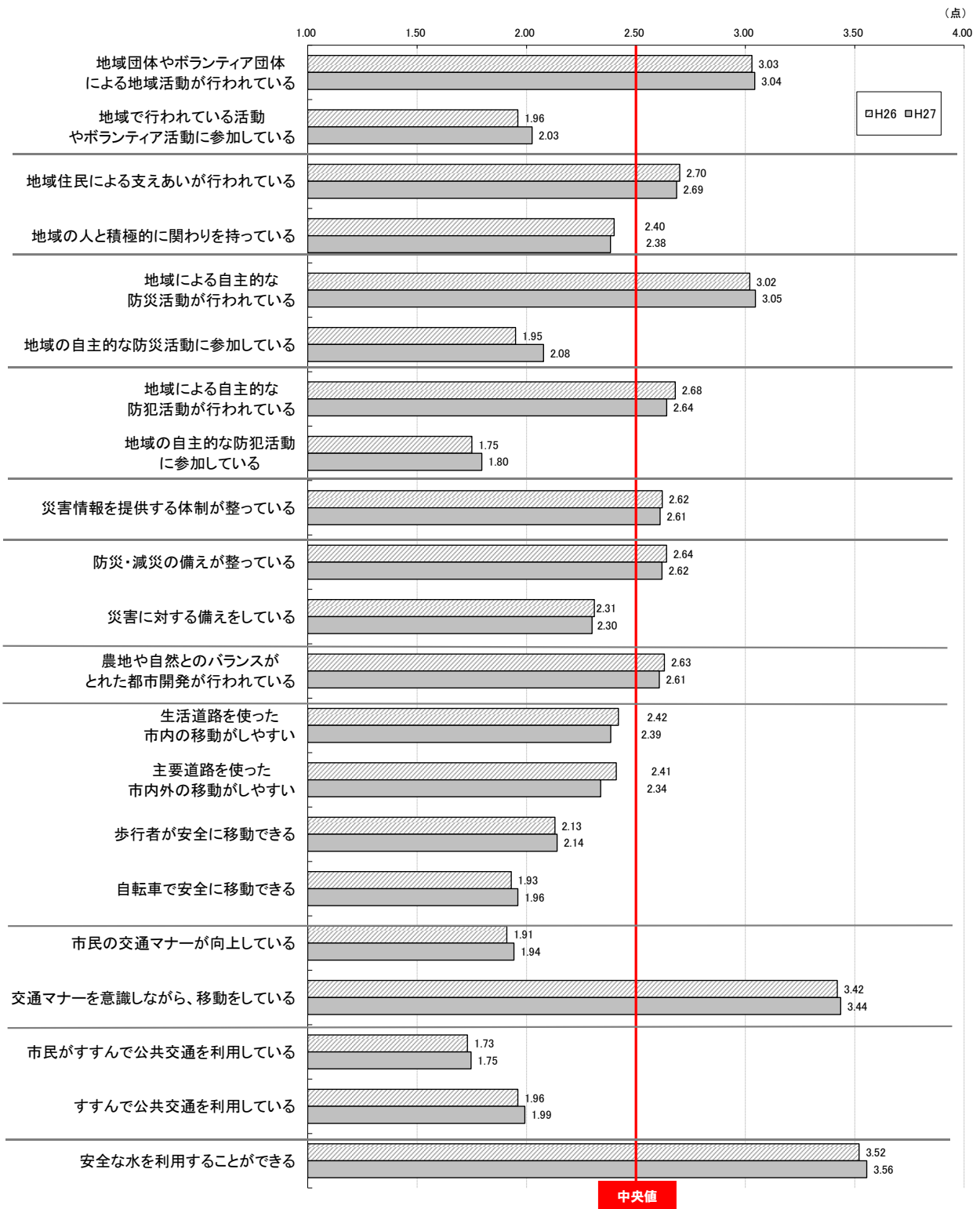
■評価結果■

- ・基本目標3「安全・安心で支えあいの心がつなぐまち」の項目の中で、中央値2.5未満の項目は、市民の行動に関する項目が多く、「地域で行われている活動やー」、「地域の人と積極的にー」、「地域の自主防災活動ー」、「地域の自主防犯活動ー」、「災害に対する備えー」がある。また道路整備や交通安全、公共交通に関する項目も中央値未満の項目が多い。
- ・平均点が3以上の評価が高い項目は、「地域団体やボランティア団体ー」、「地域による自主的な防災活動ー」、「市民が交通マナーを意識ー」、「安全な水をー」である。

政策の方向 (まちの姿)	基本施策 (個別目標)	調査項目	平均点		
			H27年	H26年	差 H27-H26
3-1 地域の支え合 いを育むまち	3-1-1 地域コミュニティづくりの推進	【市】地域団体やボランティア団体 による地域活動が行われている	3.04	3.03	0.01
		【市民】地域で行われている活動 やボランティア活動に参加している	2.03	1.96	0.07
	3-1-2 地域福祉活動の推進	【市】地域住民による支えあいが行 われている	2.69	2.70	-0.01
		【市民】地域の人と積極的に関わり を持っている	2.38	2.40	-0.02
	3-1-3 地域防災活動の推進	【市】地域による自主的な防災活動 が行われている	3.05	3.02	0.03
		【市民】地域の自主的な防災活動 に参加している	2.08	1.95	0.13
	3-1-4 地域防犯活動の推進	【市】地域による自主的な防犯活動 が行われている	2.64	2.68	-0.04
		【市民】地域の自主的な防犯活動 に参加している	1.80	1.75	0.05
3-2 災害を最小限 に抑えるまち	3-2-1 危機管理体制の強化	災害情報を提供する体制が整って いる	2.61	2.62	-0.01
	3-2-2 防災機能の充実	防災・減災の備えが整っている	2.62	2.64	-0.02
		災害に対する備えをしている	2.30	2.31	-0.01
3-3 住みやすさ を感じるまち	3-3-1 調和した土地利用の推進	農地や自然とのバランスがとれた 都市開発が行われている	2.61	2.63	-0.02
	3-3-2 道路整備の推進	主要道路を使った市内外の移動が しやすい	2.39	2.42	-0.03
		生活道路を使った市内の移動がし やすい	2.34	2.41	-0.07
	3-3-3 交通安全対策の充実	歩行者が安全に移動できる	2.14	2.13	0.01
		自転車で安全に移動できる	1.96	1.93	0.03
		市民の交通マナーが向上している	1.94	1.91	0.03
		市民が交通マナーを意識しなが ら、移動をしている	3.44	3.42	0.02
	3-3-4 公共交通ネットワークの充実	市民がすすんで公共交通を利用し ている	1.75	1.73	0.02
		すすんで公共交通を利用している	1.99	1.96	0.03
3-3-5 水道水の安定供給	安全な水を利用することができる	3.56	3.52	0.04	

※ 平均点の網掛けは中央値 2.5 未満の項目

※ 【市】は松本市の現状を聞いた項目、【市民】は市民の行動を聞いた項目



2) 評価保留の割合の経年比較

■評価結果■

・評価保留が15%以上となっているのは6項目で、「地域公共団体やボランティア団体」、「地域住民による支えあい」、「地域による自主的な防犯活動」、「災害情報を提供する」、「防災・減災の」、「農地や自然とのバランスが」である。いずれも市の現状に対する評価を把握するための設問であり、市民に取り組みが浸透していないことがうかがえる。ただし、「地域団体やボランティア団体」、「防災・減災の」、「農地や自然とのバランス」は平成26年度より評価保留の割合が2.5ポイント以上減少しており、わずかではあるが市の取り組みが伝わっていると考えられる。

政策の方向 (まちの姿)	基本施策 (個別目標)	調査項目	評価保留の割合(%)		
			H27年	H26年	差 H27-H26
3-1 地域の支えあいを育むまち	3-1-1 地域コミュニティづくりの推進	【市】地域団体やボランティア団体による地域活動が行われている	19.84	22.37	-2.53
		【市民】地域で行われている活動やボランティア活動に参加している	3.30	3.56	-0.26
	3-1-2 地域福祉活動の推進	【市】地域住民による支えあいが行われている	15.42	13.6	1.82
		【市民】地域の人と積極的に関わりを持っている	2.62	2.29	0.33
	3-1-3 地域防災活動の推進	【市】地域による自主的な防災活動が行われている	13.83	13.46	0.37
		【市民】地域の自主的な防災活動に参加している	3.29	3.58	-0.19
	3-1-4 地域防犯活動の推進	【市】地域による自主的な防犯活動が行われている	18.47	16.99	1.48
		【市民】地域の自主的な防犯活動に参加している	4.65	5.02	-0.37
3-2 災害を最小限に抑えるまち	3-2-1 危機管理体制の強化	災害情報を提供する体制が整っている	19.79	21.16	-1.37
	3-2-2 防災機能の充実	防災・減災の備えが整っている	19.31	22.07	-2.76
		災害に対する備えをしている	2.40	1.95	0.45

政策の方向 (まちの姿)	基本施策 (個別目標)	調査項目	評価保留の割合(%)		
			H27年	H26年	差 H27-H26
3-3 住みやすさを感じるまち	3-3-1 調和した土地利用の推進	農地や自然とのバランスがとれた都市開発が行われている	15.8	18.99	-3.19
	3-3-2 道路整備の推進	主要道路を使った市内外の移動がしやすい	2.85	4.23	-1.38
		生活道路を使った市内の移動がしやすい	2.92	3.57	-0.65
	3-3-3 交通安全対策の充実	歩行者が安全に移動できる	4.87	3.98	0.89
		自転車で安全に移動できる	7.58	7.46	0.12
		市民の交通マナーが向上している	8.07	8.0	0.07
		市民が交通マナーを意識しながら、移動をしている	0.82	0.59	0.23
	3-3-4 公共交通ネットワークの充実	市民がすすんで公共交通を利用している	13.39	14.18	-0.79
		すすんで公共交通を利用している	1.96	1.87	0.09
	3-3-5 水道水の安定供給	安全な水を利用することができる	2.68	3.28	-0.60

※【市】…松本市の現状を聞いた項目、【市民】…市民の行動を聞いた項目

3) 市民全体と受益者の評価の経年比較

基本目標3「安全・安心で支えあいの心がつなぐまち」では、受益者を限定する施策はない。

4) 「市の現状」と「市民の行動」の経年比較

基本目標3「安全・安心で支えあいの心がつなぐまち」の中で、「市の現状」と「市民の行動」を設定した項目は以下である。

- 「3-1-1 地域コミュニティづくりの推進」、「3-1-2 地域福祉活動の推進」、「3-1-3 地域防災活動の推進」
 「3-1-4 地域防犯活動の推進」、「3-2-2 防災機能の充実」、「3-3-3 交通安全対策の充実」、
 「3-3-4 公共交通ネットワークの充実」

■評価結果■

- ・地域コミュニティでの活動や、防災・防犯活動に関する項目では、「市の現状」に対する評価が、「市民の行動」よりも高い傾向が続いている。平成26年度よりも差が縮まった項目が多いが、今後も、市民に対して活動への参加や地域コミュニティへの関心を高めるための取り組みが必要であるといえる。
- ・地域防災活動の推進に関する項目は、市の現状、市民の行動ともに平均点が平成26年度よりも高くなっており、かつ差も縮まっている。防災についての意識が高まり、地域への活動にも積極的に参加する市民が増えつつある状況がうかがえる。
- ・交通安全対策の充実に関する項目は、「市の現状」と比較して「市民の行動」の評価が高い傾向が強い。各自が交通マナーを意識しているとはいえ、他の市民や市全体でみると十分ではないと考えている人が多いことがわかる。
- ・公共交通に関しては、「市の現状」、「市民の行動」いずれも低評価であり、これまで以上に公共交通を意識してもらうような取り組みが必要である。

3-1-1 地域コミュニティづくりの推進

		H27年	H26年
市の現状	地域団体やボランティア団体による地域活動が行われている	3.04	3.03
市民の行動	地域で行われている活動やボランティア活動に参加している	2.03	1.96
差	【市の現状】-【市民の行動】の差	1.02	1.07

3-1-2 地域福祉活動の推進

		H27年	H26年
市の現状	地域住民による支えあいが行われている	2.69	2.7
市民の行動	地域の人と積極的に関わりを持っている	2.38	2.40
差	【市の現状】-【市民の行動】の差	0.3	0.3

3-1-3 地域防災活動の推進

		H27年	H26年
市の現状	地域による自主的な防災活動が行われている	3.05	3.02
市民の行動	地域の自主的な防災活動に参加している	2.08	1.95
差	【市の現状】-【市民の行動】の差	0.97	1.07

3-1-4 地域防犯活動の推進

		H27年	H26年
市の現状	地域による自主的な防犯活動が行われている	2.64	2.68
市民の行動	地域の自主的な防犯活動に参加している	1.80	1.75
差	【市の現状】-【市民の行動】の差	0.85	0.93

3-2-2 防災機能の充実

		H27年	H26年
市の現状	防災・減災の備えが整っている	2.62	2.64
市民の行動	災害に対する備えをしている	2.30	2.31
差	【市の現状】-【市民の行動】の差	0.32	0.33

3-3-3 交通安全対策の充実

		H27年	H26年
市の現状	市民の交通マナーが向上している	1.94	1.91
市民の行動	交通マナーを意識しながら、移動をしている	3.44	3.42
差	【市の現状】-【市民の行動】の差	-1.49	-1.51

3-3-4 公共交通ネットワークの充実

		H27年	H26年
市の現状	市民がすすんで公共交通を利用している	1.75	1.73
市民の行動	すすんで公共交通を利用している	1.99	1.96
差	【市の現状】-【市民の行動】の差	-0.25	-0.23

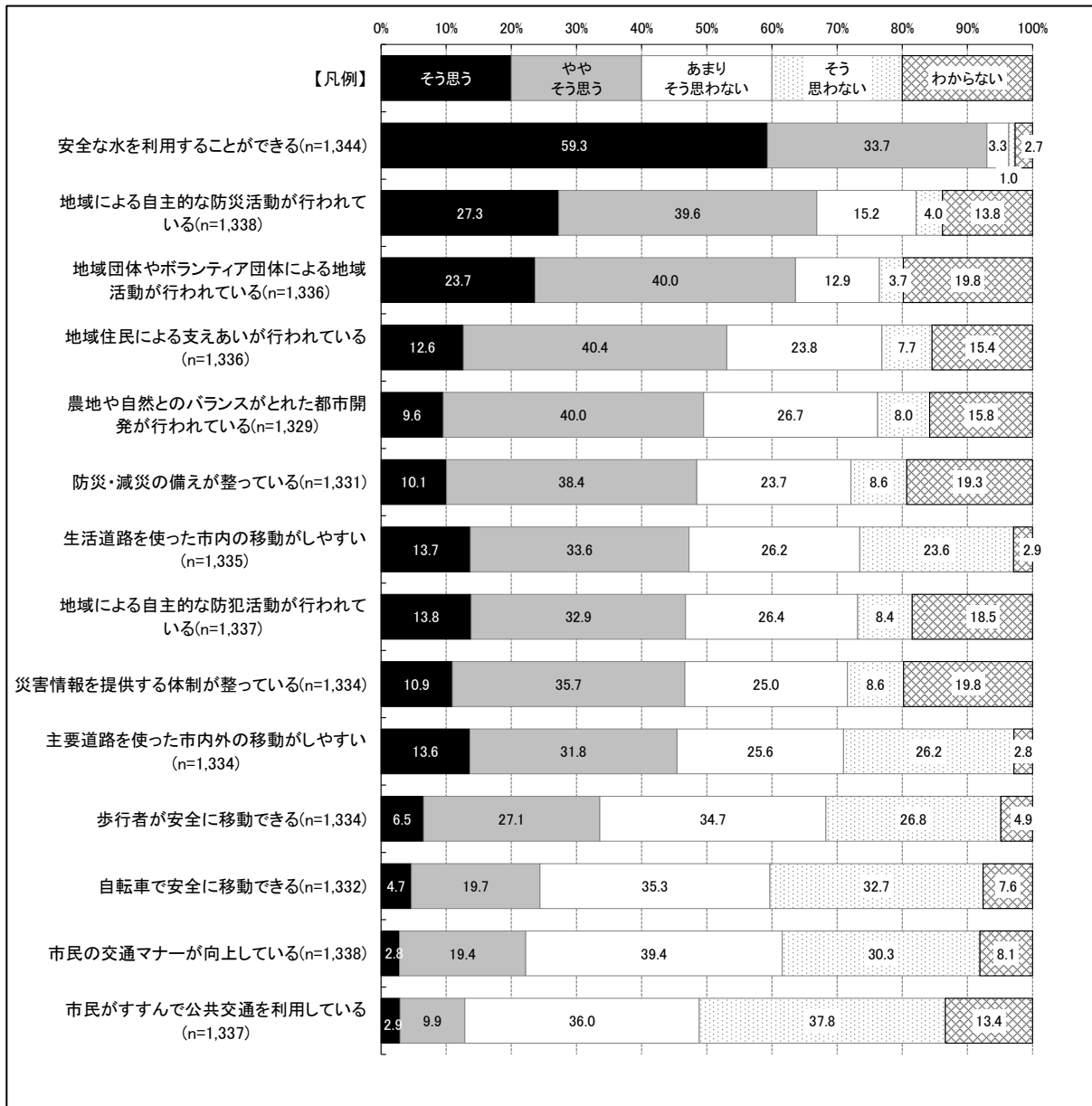
②今年度調査結果

1) 評価施策別度数分布

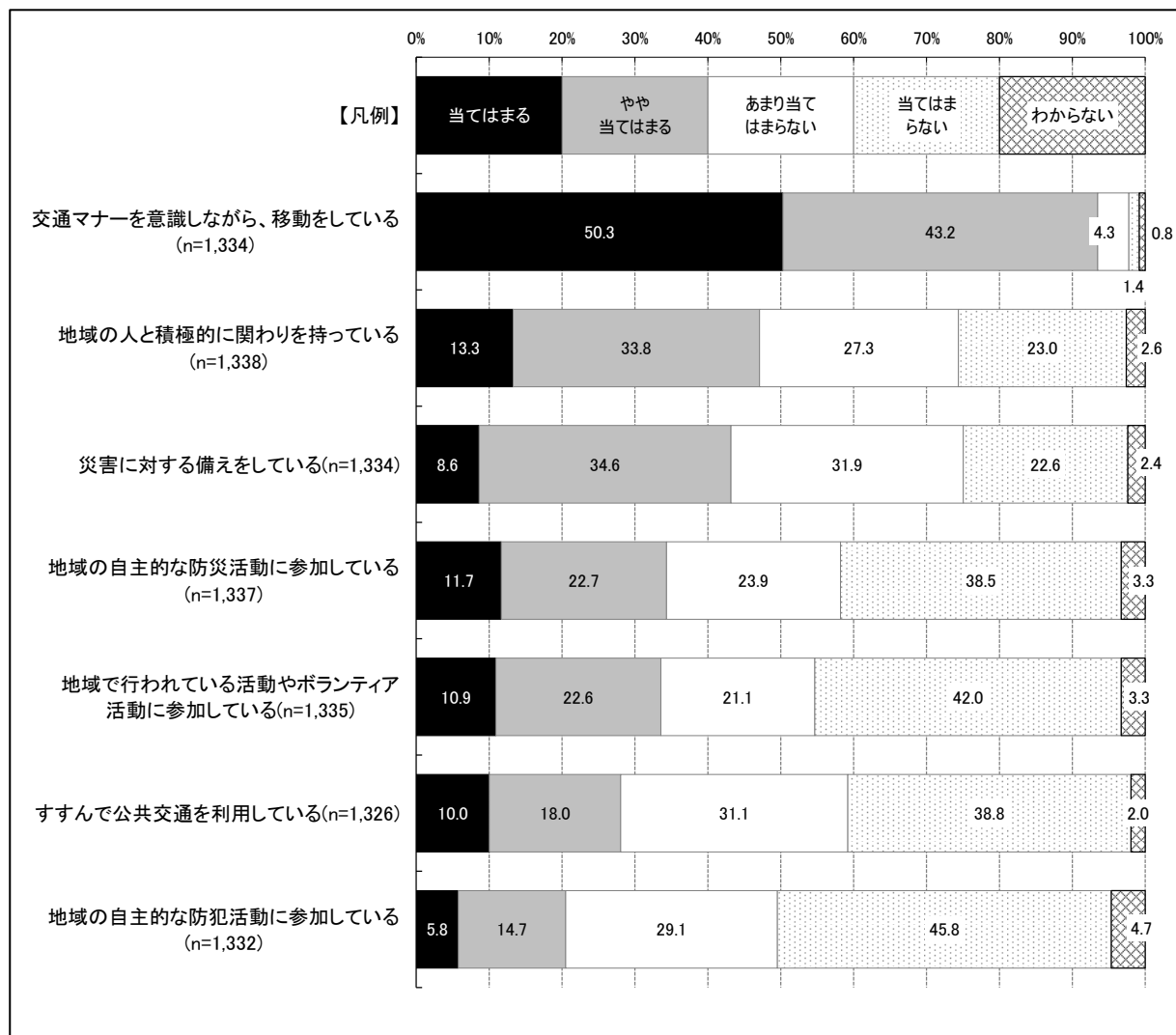
■評価結果■

- ・市の現状について、交通に関する項目が低評価の傾向にある。「歩行者が安全にー」、「自転車で安全にー」、「市民の交通マナーがー」、「市民がすすんでー」は肯定的な評価が 35%以下である。
- ・市民の行動については、地域活動への参加、公共交通の利用に関する項目で肯定的な評価が 35%以下である。

【松本市の現状】



【市民の行動】



2) 今年度を実施した調査問の差

基本目標3「安全・安心で支えあいの心がつなぐまち」において、第1回、第2回調査で、統計的有意差がみられた項目はなかった。

(4)基本目標4 人にやさしい環境を保全し自然と共生するまちについて

本市では松本の豊かな自然環境を守り、快適な生活環境を整え、持続可能な循環型の社会が構築できるよう、市民、事業者などと行政が連携するまちづくりを進めている。

①経年での比較

1) 平均点による経年比較

■評価結果■

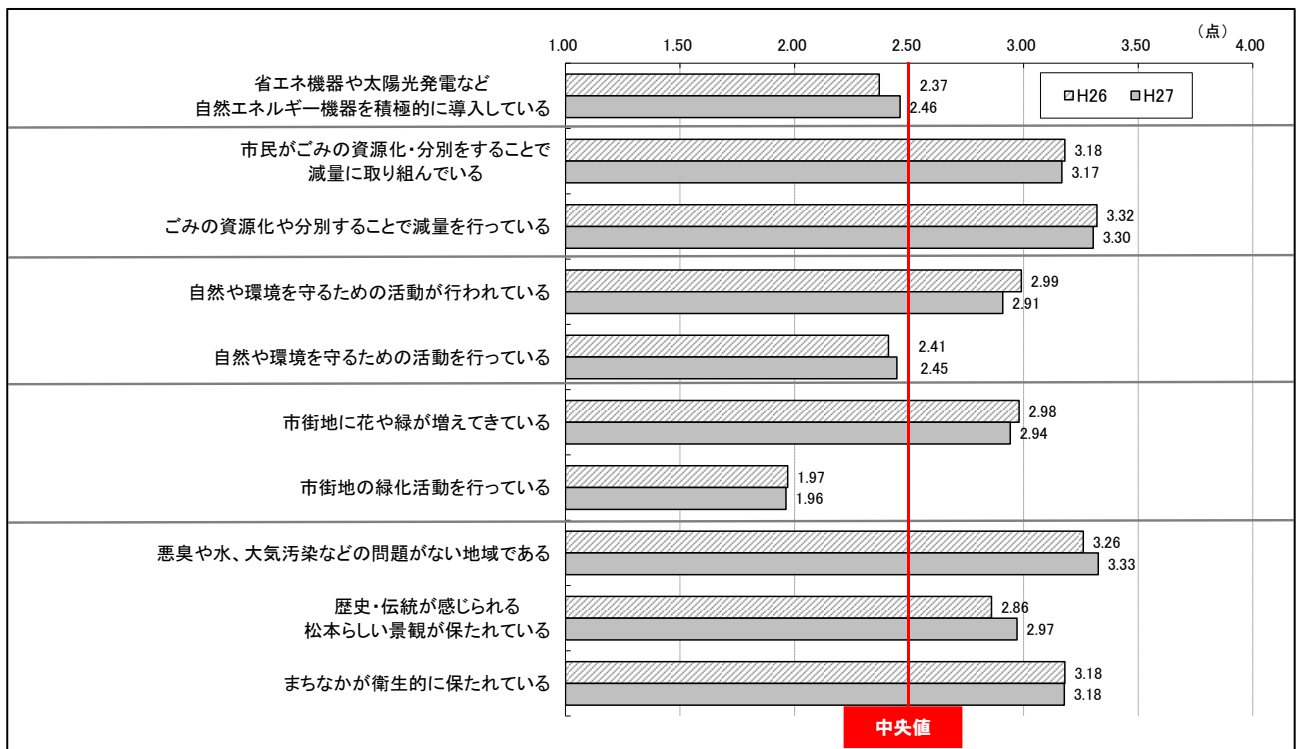
- 基本目標4「人にやさしい環境を保全し自然と共生するまち」の項目の中で、中央値2.5未満の項目は、「省エネ機器やー」、「自然や環境を守るための活動を行っている」、「市街地の緑化活動ー」の3項目である。いずれも平成26年度も中央値未満であり、継続した傾向である。
- 平均点が3以上で高かった項目は、「市民がごみの資源化やー」、「ごみの資源化やー」、「悪臭や水ー」、「まちなかがー」であった。生活衛生など身近な項目について高い傾向であるといえる。

政策の方向 (まちの姿)	基本施策 (個別目標)	調査項目	平均点		
			H27年	H26年	差 H27-H26
4-1 環境負荷軽減 に取り組むまち	4-1-1 新エネルギー活用の推進	省エネ機器や太陽光発電など自然エネルギー機器を積極的に導入している	2.46	2.37	0.09
	4-1-2 車優先社会からの転換	施策3-3-4と統合			
	4-1-3 廃棄物発生抑制の推進	【市】市民がごみの資源化や分別をすることで減量に取り組んでいる	3.17	3.18	-0.01
		【市民】ごみの資源化や分別をすることで減量に取り組んでいる	3.30	3.32	-0.02
	4-1-4 環境教育の充実	【市】自然や環境を守るための活動が行われている	2.91	2.99	-0.08
【市民】自然や環境を守るための活動を行っている		2.45	2.41	0.04	
4-2 自然を守り、育むまち	4-2-1 森林環境整備の推進	極めて限定的な市民にしか回答できないため調査項目を設定しなかった			
	4-2-2 緑化の推進	【市】市街地に花や緑が増えてきている	2.94	2.98	-0.04
		【市民】市街地の緑化活動を行っている	1.96	1.97	-0.01

政策の方向 (まちの姿)	基本施策 (個別目標)	調査項目	平均点		
			H27年	H26年	差 H27-H26
4-3 快適な生活環境を育むまち	4-3-1 水、大気環境保全の推進	悪臭や水、大気汚染などの問題がない地域である	3.33	3.26	0.07
	4-3-2 下水道整備の推進	サービスに差がない項目のため、調査項目を設定しなかった			
	4-3-3 景観維持、保全の推進	歴史・伝統が感じられる松本らしい景観が保たれている	2.97	2.86	0.11
	4-3-4 公衆衛生環境の向上	まちなかが衛生的に保たれている	3.18	3.18	0.00

※ 平均点の網掛けは中央値 2.5 未満の項目

※ 【市】は松本市の現状を聞いた項目、【市民】は市民の行動を聞いた項目



2) 評価保留の割合の経年比較

■評価結果■

・他の基本目標と比較して、評価保留の割合は低いが、「自然や環境を守るための活動が行われている」という市の現状については評価保留が16.2%に及んでいる。平成26年度からは約3ポイント減少しているが、引き続き市の取り組みをわかりやすく市民に伝えていく必要がある。

政策の方向 (まちの姿)	基本施策 (個別目標)	調査項目	評価保留の割合(%)		
			H27年	H26年	差 H27-H26
4-1 環境負荷軽減 に取り組むまち	4-1-1 新エネルギー活用の推進	省エネ機器や太陽光発電など自然エネルギー機器を積極的に導入している	4.86	4.54	0.29
	4-1-2 車優先社会からの転換	施策3-3-4と統合			
	4-1-3 廃棄物発生抑制の推進	【市】市民がごみの資源化や分別をすることで減量に取り組んでいる	6.25	7.48	-1.23
		【市民】ごみの資源化や分別をすることで減量に取り組んでいる	1.56	1.76	-0.20
	4-1-4 環境教育の充実	【市】自然や環境を守るための活動が行われている	16.2	19.02	-2.82
【市民】自然や環境を守るための活動を行っている		5.87	7.69	-1.82	
4-2 自然を守り、育むまち	4-2-1 森林環境整備の推進	極めて限定的な市民にしか回答できないため調査項目を設定しなかった			
	4-2-2 緑化の推進	【市】市街地に花や緑が増えてきている	9.12	11.2	-2.08
		【市民】市街地の緑化活動を行っている	8.72	8.09	0.63
4-3 快適な生活環境を育むまち	4-3-1 水、大気環境保全の推進	悪臭や水、大気汚染などの問題がない地域である	4.93	5.13	-0.20
	4-3-2 下水道整備の推進	サービスに差がない項目のため、調査項目を設定しなかった			
	4-3-3 景観維持、保全の推進	歴史・伝統が感じられる松本らしい景観が保たれている	5.03	9.02	-3.99
	4-3-4 公衆衛生環境の向上	まちなかが衛生的に保たれている	5.08	6.74	-1.66

※【市】は松本市の現状を聞いた項目、【市民】は市民の行動を聞いた項目

3) 市民全体と受益者の評価の経年比較

基本目標 4「人にやさしい環境を保全し自然と共生するまち」では、受益者を限定する施策はない。

4) 「市の現状」と「市民の行動」の経年比較

基本目標 4「人にやさしい環境を保全し自然と共生するまち」の中で、「市の現状」と「市民の行動」を設定した項目は、「4-1-3 廃棄物発生抑制の推進」、「4-1-4 環境教育の充実」、「4-2-2 緑化の推進」であり、結果は以下のとおりである。

■評価結果■

- ・ごみの資源化・分別に関しては、「市の現状」よりも「市民の行動」に対する評価が高くなっている。身近な行動として、市民の意識が高いことがうかがえる。
- ・自然環境保全や市街地の緑化については、「市の現状」が「市民の行動」を上回っており、各人の活動や意識に結びついていないといえる。ただ平成 26 年度と比較すると、その差はわずかではあるが減少している。

4-1-3 廃棄物発生抑制の推進

		H27年	H26年
市の現状	市民がごみの資源化・分別をすることで減量に取り組んでいる	3.17	3.18
市民の行動	ごみの資源化や分別することで減量を行っている	3.30	3.32
差	【市の現状】-【市民の行動】の差	-0.14	-0.14

4-1-4 環境教育の充実

		H27年	H26年
市の現状	自然や環境を守るための活動が行われている	2.91	2.99
市民の行動	自然や環境を守るための活動を行っている	2.45	2.41
差	【市の現状】-【市民の行動】の差	0.46	0.58

4-2-2 緑化の推進

		H27年	H26年
市の現状	市街地に花や緑が増えてきている	2.94	2.98
市民の行動	市街地の緑化活動を行っている	1.96	1.97
差	【市の現状】-【市民の行動】の差	0.98	1.01

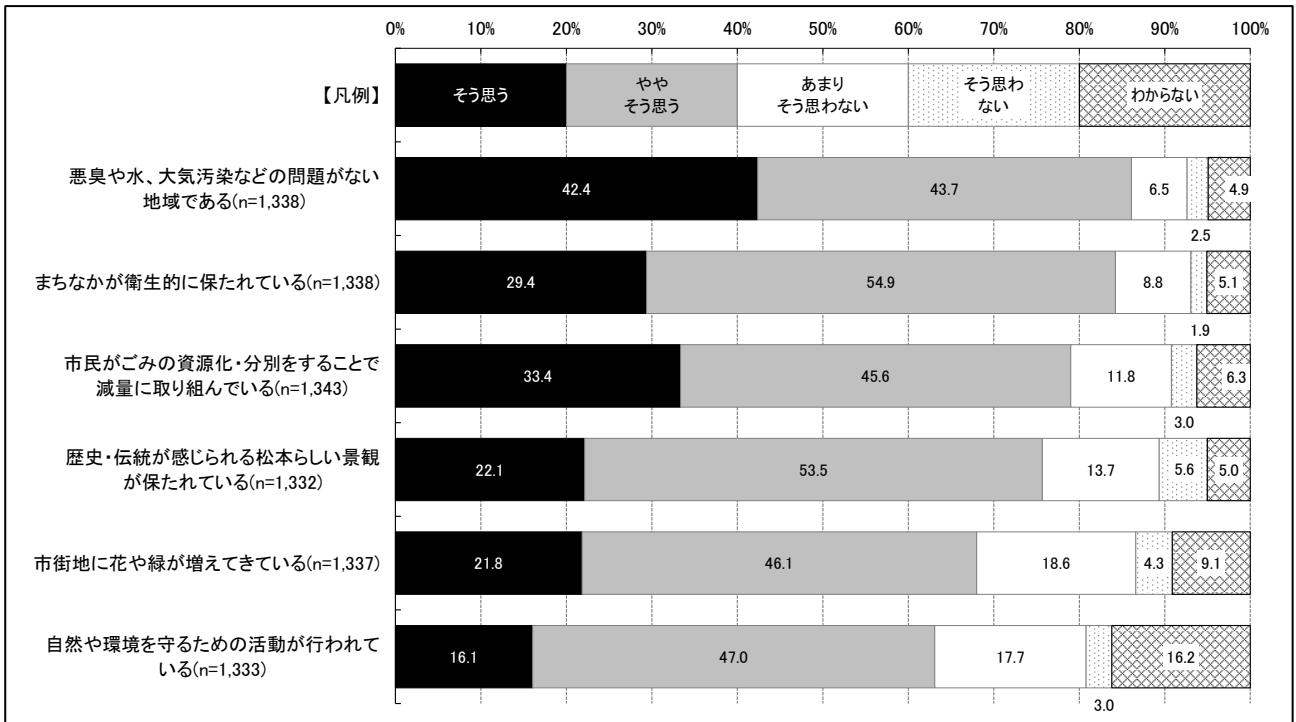
②今年度調査結果

1) 評価施策別度数分布

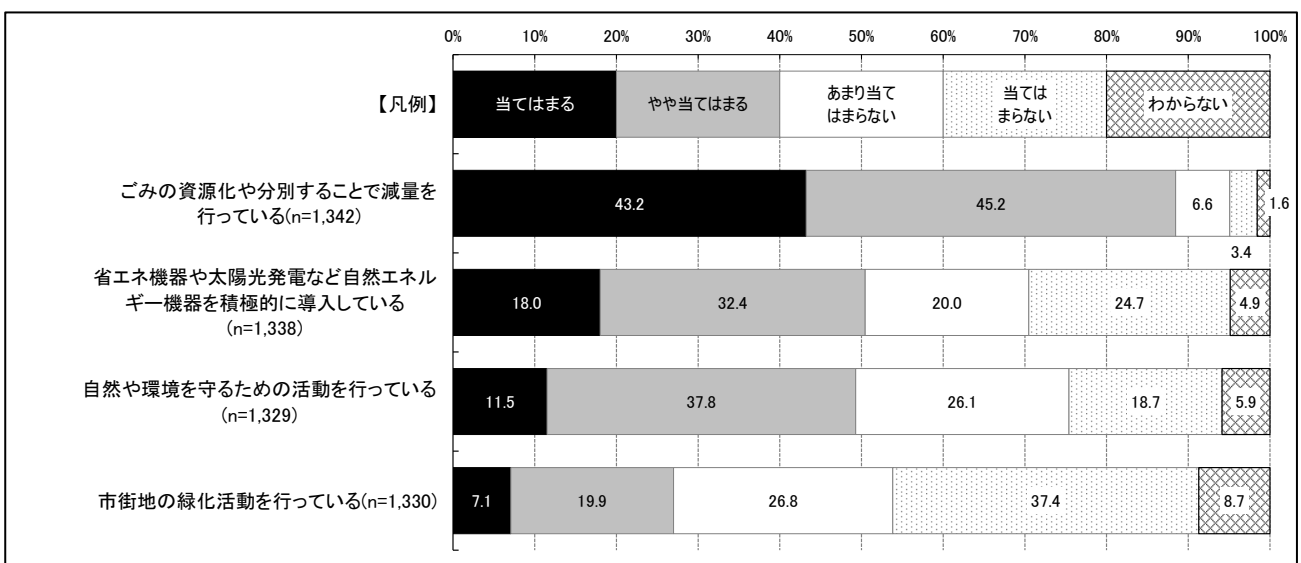
■評価結果■

- ・市の現状については、「悪臭や水」、「まちなかが」、「市民がごみの資源化や」が肯定的な評価が高く、約80%に達している。
- ・市民の行動については、「ごみの資源化や」が、肯定的評価が88.4%と非常に高くなっている。
- ・「市街地の緑化活動」は、肯定的評価が約30%にとどまっている。

【松本市の現状】



【市民の行動】



2) 今年度に実施した調査間の差

基本目標 4「人にやさしい環境を保全し自然と共生するまち」において、第 1 回、第 2 回調査で、統計的有意差がみられた項目はなかった。

(5)基本目標5 魅力と活力にあふれにぎわいを生むまちについて

本市では松本の資源と人材を活かして、産業基盤を強化し、地域のブランド力を高め、地域経済がさらに力強く発展するよう、人が行きかうまちづくりを進めている。

①経年での比較

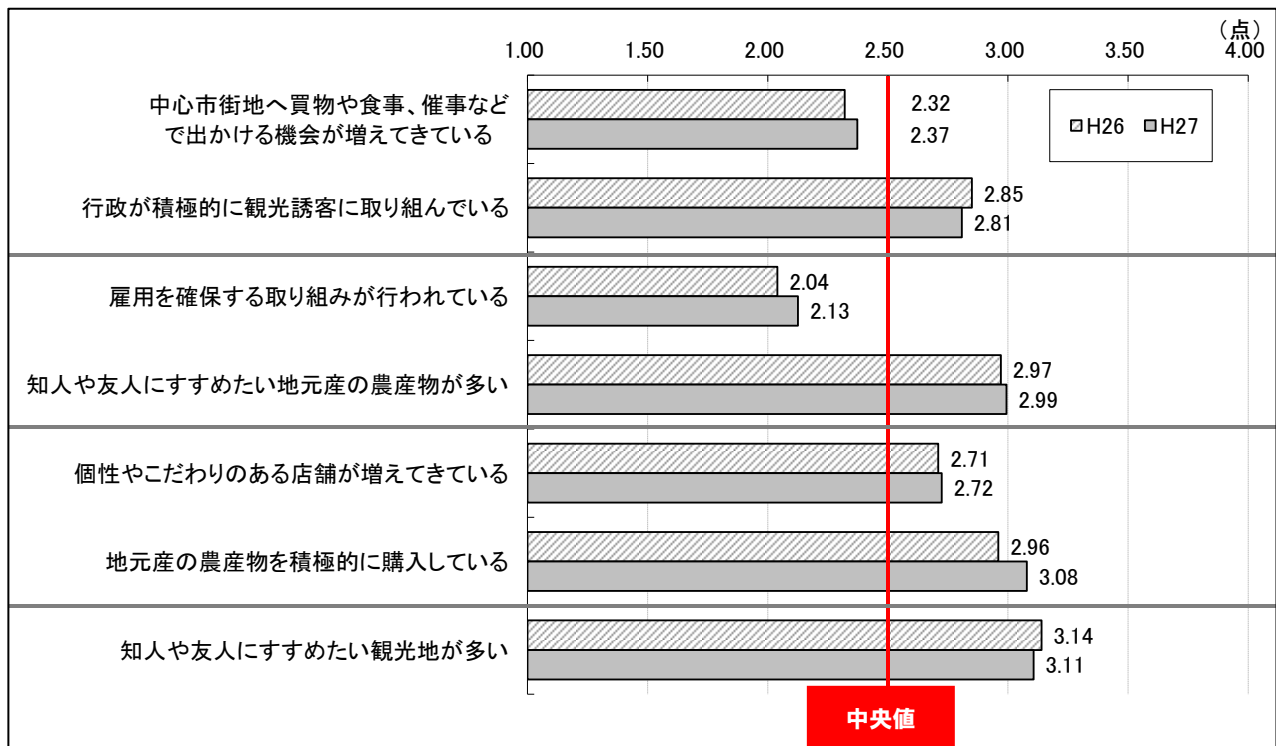
1) 平均点による経年比較

■評価結果■

- ・基本目標5「魅力と活力にあふれにぎわいを生むまち」の中で、中央値2.5以下の項目は、「中心市街地へー」、「働く場を確保ー」となっている。
- ・平均点3以上の項目は、「地元産の農産物をー」、「知人や友人にすすめたい観光地ー」となっている。地域の産業や観光地に対して市民が高く評価していることがわかる。

政策の方向 (まちの姿)	基本施策 (個別目標)	調査項目	平均点		
			H27年	H26年	差 H27-H26
5-1 地域資源と 人材を活か すまち	5-1-1 人材育成・組織づくりの 推進	極めて限定的な市民にしか回答できないため調査項目を設定しなかつた			
	5-1-2 中心市街地活性化の推 進	中心市街地へ買物や食事、催事などで出かける機会が増えてきている	2.37	2.32	0.05
	5-1-3 観光資源整備の推進	行政が積極的に観光誘客に取り組んでいる	2.81	2.85	-0.04
	5-1-4 労働、雇用対策の推進	働く場を確保する取り組みが行われている	2.13	2.04	0.09
5-2 産業の活力 を生み、伸ば すまち	5-2-1 農林業の振興	知人や友人にすすめたい地元産の農産物が多い	2.99	2.97	0.02
	5-2-2 商業の振興	個性やこだわりのある店舗が増えてきている	2.72	2.71	0.01
	5-2-3 工業の振興	極めて限定的な市民にしか回答できないため調査項目を設定しなかつた			
5-3 松本ブランド を発信するま ち	5-3-1 農産物高付加価値化の 推進	地元産の農産物を積極的に購入している	3.08	2.96	0.12
	5-3-2 新産業の創出	極めて限定的な市民にしか回答できないため調査項目を設定しなかつた			
	5-3-3 戦略的な観光施策、 交流の推進	知人や友人にすすめたい観光地が多い	3.11	3.14	-0.03

※ 平均点の網掛けは中央値2.5未満の項目



2) 評価保留の割合の経年比較

■評価結果■

- ・回答保留の割合が多い項目は、「働く場を確保」であり、30%近い市民が「わからない」としている。昨年度の調査から約3ポイント改善しているものの、現状の取り組みを十分に伝え切れていないと考えられる。
- ・「行政が積極的に」、「個性やこだわりのある」は15%近い市民が回答保留としている。

政策の方向 (まちの姿)	基本施策 (個別目標)	調査項目	評価保留の割合(%)		
			H27年	H26年	差 H27-H26
5-1 地域資源と 人材を活か すまち	5-1-1 人材育成・組織づくりの 推進	極めて限定的な市民にしか回答できないため調査項目を設定しなかつた			
	5-1-2 中心市街地活性化の推 進	中心市街地へ買物や食事、催事などで出かける機会が増えてきている	2.18	1.59	0.59
	5-1-3 観光資源整備の推進	行政が積極的に観光誘客に取り組んでいる	14.44	14.6	-0.16
	5-1-4 労働、雇用対策の推進	働く場を確保する取り組みが行われている	29.25	32.41	-3.16
5-2 産業の活 力を生み、伸ば すまち	5-2-1 農林業の振興	知人や友人にすすめたい地元産の農産物が多い	6.24	8.88	-2.64
	5-2-2 商業の振興	個性やこだわりのある店舗が増えてきている	14.69	15.09	-0.40
	5-2-3 工業の振興	極めて限定的な市民にしか回答できないため調査項目を設定しなかつた			
5-3 松本ブランド を発信するま ち	5-3-1 農産物高付加価値化の 推進	地元産の農産物を積極的に購入している	2.03	1.67	0.36
	5-3-2 新産業の創出	極めて限定的な市民にしか回答できないため調査項目を設定しなかつた			
	5-3-3 戦略的な観光施策、 交流の推進	知人や友人にすすめたい観光地が多い	3.84	4.27	-0.43

3) 市民全体と受益者の評価の経年比較

基本目標5「魅力と活力にあふれにぎわいを生むまち」では、受益者を限定する施策はない。

4) 「市の現状」と「市民の行動」の経年比較

基本目標5「魅力と活力にあふれにぎわいを生むまち」では、「市の現状」と「市民の行動」の両方を設定した項目はない。

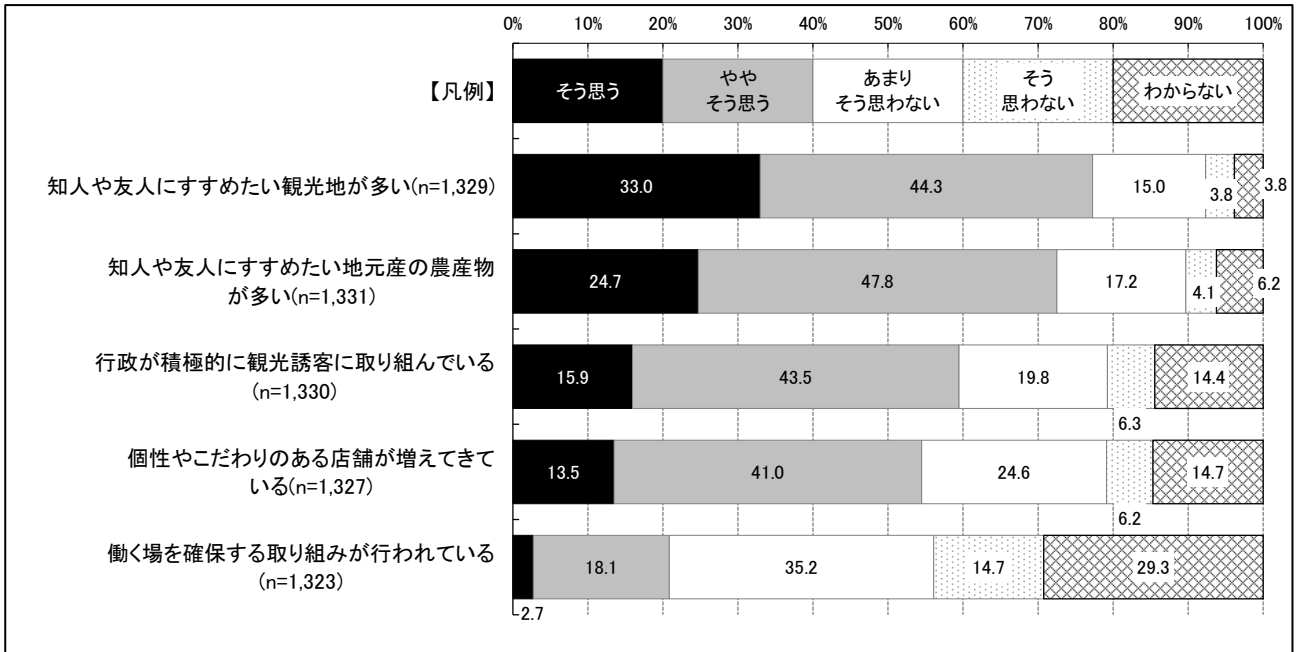
②今年度調査結果

1) 評価施策別度数分布

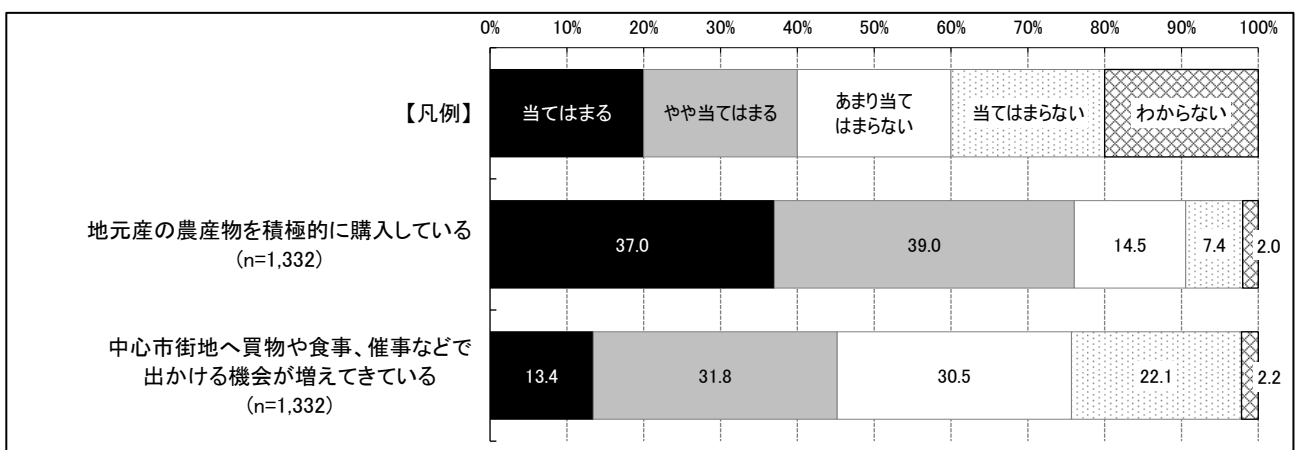
■評価結果■

- ・「知人や友人にすすめたい観光地－」、「地元産の農産物を－」、「知人や友人にすすめたい地元産の農産物－」は70%以上の市民が肯定的に評価している。
- ・「働く場を確保－」については、回答保留が多いこともあり、肯定的な評価が約20%にとどまっている。

【松本市の現状】



【市民の行動】



2) 今年度実施した調査間の差

基本目標5「魅力と活力にあふれにぎわいを生むまち」において、第1回、第2回調査で、統計的有意差がみられた項目はなかった。

(6)基本目標6 とともに学びあい人と文化を育むまちについて

本市では薫り高い松本の文化を礎に、人と人とのつながりが深まり、自ら行動する未来の担い手が育つよう、豊かな人間性を育むまちづくりを進めている。

①経年での比較

1) 平均点による経年比較

■評価結果■

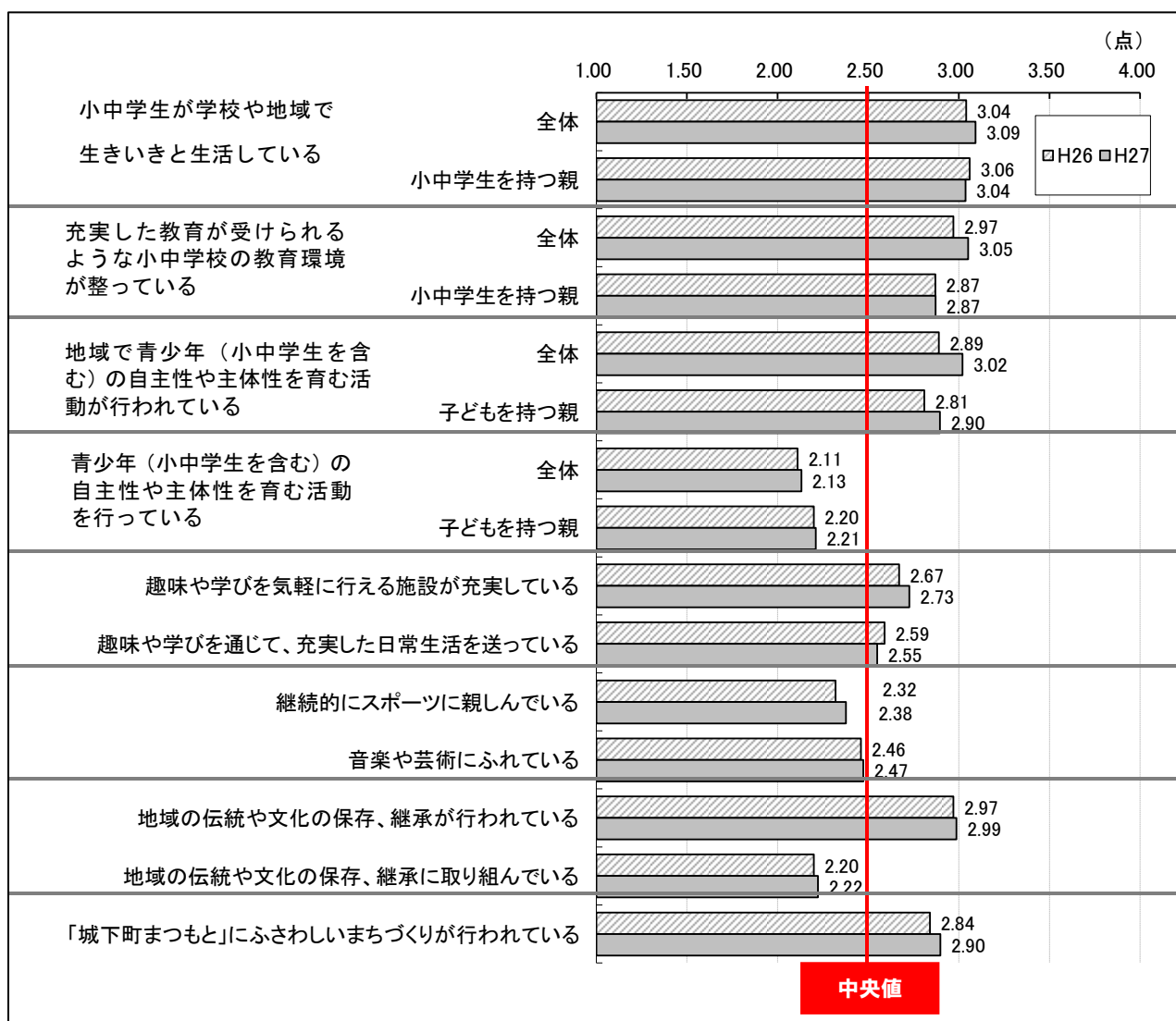
- 基本目標6「とともに学びあい人と文化を育むまち」は他の基本目標と比較して総じて平均点が高い傾向にある。中でも平均点3以上の項目は、「小中学生が学校や地域でー」、「充実した教育が受けられるー（全体）」、「地域で青少年ー（全体）」となっている。
- 中央値 2.5 未満の項目は、「青少年ー」、「継続的にスポーツー」、「音楽や芸術にー」、「(祭りなどの)地域の伝統やー」である。

政策の方向 (まちの姿)	基本施策 (個別目標)	調査項目	平均点			
			H27年	H26年	差 H27-H26	
6-1 子どもの可能性が 広がるまち	6-1-1 学校教育の充実	小中学生が学校や地域で 生きいきとしている	小中学生の親	3.04	3.06	-0.02
		(全体)		3.09	3.04	0.06
	6-1-2 学校環境整備 の推進	充実した教育が受けられ るような小中学校の教育 環境が整っている	小中学生の親	2.87	2.87	0.00
			(全体)		3.06	2.97
	6-1-3 家庭、地域と学校の 連携強化	【市】地域で青少年(小中 学生を含む)の自主性や 主体性を育む活動が行わ れている	子どもを持つ親	2.90	2.81	0.09
			(全体)		3.02	2.89
		【市民】青少年(小中学生 を含む)の自主性や主体 性を育む活動を行っている	子どもを持つ親	2.21	2.20	0.01
			(全体)	2.13	2.11	0.02
6-2 生涯学習が 地域に 活かされるま ち	6-2-1 生涯学習機会の 充実	【市民】趣味や学びを通じて、充実した日常生活を送っている		2.55	2.59	-0.04
	6-2-2 生涯学習施設整 備の推進	【市】趣味や学びを気軽に行える施設が充実している		2.73	2.67	0.06
	6-2-3 スポーツの振興	継続的にスポーツに親しんでいる(スポーツに取り組んだり、観戦することを含む)		2.38	2.32	0.06

政策の方向 (まちの姿)	基本施策 (個別目標)	調査項目	平均点		
			H27年	H26年	差 H27-H26
6-3 文化芸術を 創り、 育むまち	6-3-1 文化芸術活動の 推進	音楽や芸術にふれている (音楽や芸術活動に取り組んだり、鑑賞する ことを含む)	2.47	2.46	0.01
	6-3-2 文化資産保護と 活用の推進	【市】地域の伝統や文化の保存、継承が行わ れている	2.99	2.97	0.02
		【市民】(祭りなどの)地域の伝統や文化の保 存、継承に取り組んでいる	2.22	2.20	0.02
	6-3-3 城下町まつもとの 再生	「城下町まつもと」にふさわしいまちづくりが 行われている	2.90	2.84	0.06

※ 平均点の網掛けは中央値 2.5 未満の項目

※ 【市】は松本市の現状を聞いた項目、【市民】は市民の行動を聞いた項目



2) 評価保留の割合の経年比較

■評価結果■

・地域での教育に関しては、回答者によっては身近に接していないこともあり、回答保留の割合が高くなっている。「小中学生が学校や地域でー（全体）」、「充実した教育が受けられるー（全体）」、「地域で青少年ー（全体）」、「青少年ー（全体）」、「趣味や学びを気軽に出来るー」は回答保留が20%以上となっている。中でも「地域で青少年ー」、「青少年ー」は市民全体でも受益者である子どもを持つ親でも回答保留の割合が高くなっており、取り組みの周知、地域での活動の周知が必要である。

政策の方向 (まちの姿)	基本施策 (個別目標)	調査項目	評価保留の割合(%)			
			H27年	H26年	差 H27-H26	
6-1 子どもの可能性が 広がるまち	6-1-1 学校教育の充実	小中学生が学校や地域で 生きいきと生活している	小中学生の親	1.04	6.49	-5.45
		(全体)		28.09	29.91	-1.82
	6-1-2 学校環境整備 の推進	充実した教育が受けられる ような小中学校の教育 環境が整っている	小中学生の親	3.11	8.15	-5.04
		(全体)		31.42	35.15	-3.73
	6-1-3 家庭、地域と学校の 連携強化	【市】地域で青少年(小中 学生を含む)の自主性や 主体性を育む活動が行わ れている	子どもを持つ親	22.39	26.27	-3.88
			(全体)		33.36	36.3
	【市民】青少年(小中学生 を含む)の自主性や主体 性を育む活動を行っている	子どもを持つ親	11.01	11.99	-0.98	
		(全体)		21.4	20.85	0.55
6-2 生涯学習が 地域に 活かされるま ち	6-2-1 生涯学習機会の 充実	【市民】趣味や学びを通じて、充実した日 常生活を送っている		8.4	8.16	0.24
	6-2-2 生涯学習施設整 備の推進	【市】趣味や学びを気軽に出来る施設が充 実している		22.97	21.99	0.98
	6-2-3 スポーツの振興	継続的にスポーツに親しんでいる (スポーツに取り組んだり、観戦するこ とを含む)		5.39	6.73	-1.34
6-3 文化芸術を 創り、 育むまち	6-3-1 文化芸術活動の 推進	音楽や芸術にふれている (音楽や芸術活動に取り組んだり、鑑賞す ることを含む)		5.15	5.44	-0.29
	6-3-2 文化資産保護と 活用の推進	【市】地域の伝統や文化の保存、継承が行 われている		19.23	18.37	0.86
		【市民】(祭りなどの)地域の伝統や文化 の保存、継承に取り組んでいる		6.36	8.96	-2.60
6-3-3 城下町まつもの 再生	「城下町まつもと」にふさわしいまちづく りが行われている		18.43	17.61	0.82	

※【市】は松本市の現状を聞いた項目、【市民】は市民の行動を聞いた項目

3) 市民全体と受益者の評価の経年比較

基本目標 6「ともに学びあい人と文化を育むまち」では、受益者を限定する施策は、「6-1-1 学校教育の充実」、「6-1-2 学校環境整備の推進」、「6-1-3 家庭、地域と学校の連携強化」である。

■評価結果■

- ・「小中学生が学校や地域でー」、「充実した教育が受けられるー」、「地域で青少年ー」の 3 項目は、市民全体と受益者との差はあまり大きくはない。平成 26 年度と比較すると、市民全体の方が受益者よりもやや高い評価をしている傾向にある。
- ・「青少年ー」については、受益者の方が高評価となっており、子どもを持つ親が実際に活動を行っているためと考えられる。

【市民全体と受益者の比較】

6-1-1 学校教育の充実「小中学生が学校や地域で生きいきと生活としている」

	H27年	H26年
市民全体	3.09	3.04
小中学生の親	3.04	3.06
【市民全体】-【小中学生の親】の差	0.06	-0.02

6-1-2 学校環境整備の推進「充実した教育が受けられるような小中学校の教育環境が整っている」

	H27年	H26年
市民全体	3.05	2.97
小中学生の親	2.87	2.87
【市民全体】-【小中学生の親】の差	0.18	0.1

6-1-3 家庭、地域と学校の連携強化

「地域で青少年(小中学生を含む)の自主性や主体性を育む活動が行われている」

	H27年	H26年
市民全体	3.02	2.89
小中学生の親	2.90	2.81
【市民全体】-【小中学生の親】の差	0.12	0.08

「青少年(小中学生を含む)の自主性や主体性を育む活動を行っている」

	H27年	H26年
市民全体	2.13	2.11
小中学生の親	2.21	2.20
【市民全体】-【小中学生の親】の差	-0.08	-0.09

4) 「市の現状」と「市民の行動」の経年比較

基本目標6「ともに学びあい人と文化を育むまち」の中で、「市の現状」と「市民の行動」の両方を設定した項目は、「6-1-3 家庭、地域と学校の連携強化」、「6-2-1 生涯学習機会の充実／6-2-2 生涯学習施設整備の推進」、「6-3-2 文化資産保護と活用の推進」であり、結果は以下のとおりである。

■評価結果■

- ・いずれの項目においても、「市の現状」よりも「市民の行動」の評価が下回っており、実際に活動や取り組みなどを行っている市民が少ないと考えられる。
- ・平成26年度と比較して、「市の現状」と「市民の行動」の差に大きな傾向の変化は見られない。

6-1-3 家庭、地域と学校の連携強化

		H27年	H26年
市の現状	地域で青少年(小中学生を含む)の自主性や主体性を育む活動が行われている	3.02	2.89
市民の行動	青少年(小中学生を含む)の自主性や主体性を育む活動を行っている	2.13	2.11
差	【市の現状】-【市民の行動】の差	0.89	0.78

6-2-1 生涯学習機会の充実／6-2-2 生涯学習施設整備の推進

		H27年	H26年
市の現状	趣味や学びを気軽に行える施設が充実している	2.73	2.67
市民の行動	趣味や学びを通じて、充実した日常生活を送っている	2.55	2.59
差	【市の現状】-【市民の行動】の差	0.18	0.08

6-3-2 文化資産保護と活用の推進

		H27年	H26年
市の現状	地域の伝統や文化の保存、継承が行われている	2.99	2.97
市民の行動	(祭りなどの)地域の伝統や文化の保存、継承に取り組んでいる	2.22	2.20
差	【市の現状】-【市民の行動】の差	0.76	0.77

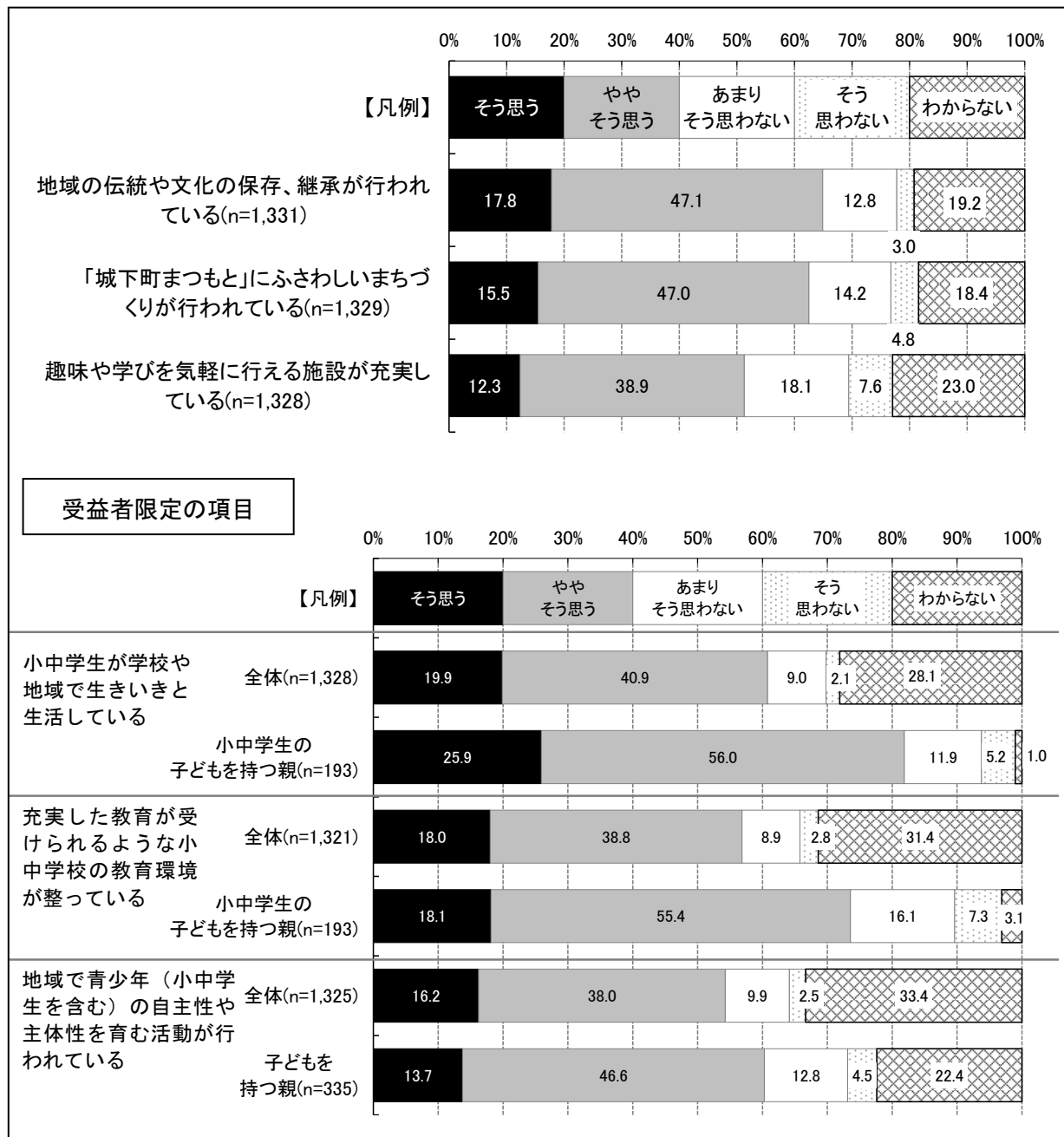
②今年度調査結果

1) 評価施策別度数分布

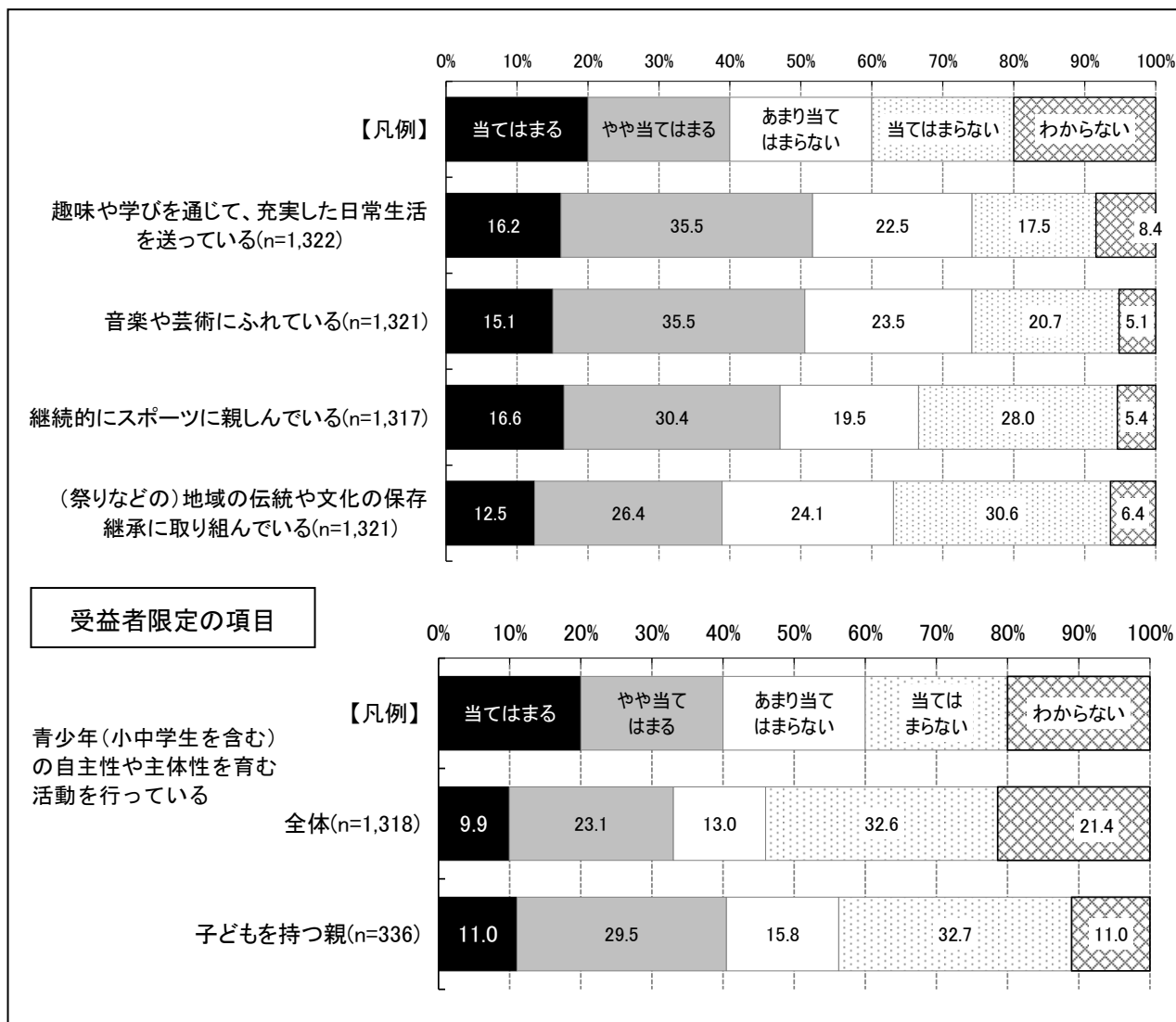
■評価結果■

- ・小中学生の子どもを持つ親は「小中学生が学校や地域でー」、「充実した教育が受けられるー」の項目が市民全体でみるよりも肯定的な評価の割合が高く、70～80%程度となっている。
- ・「市民の行動」の項目は、いずれも肯定的な評価の割合は約 50%以下となっている。「継続的にスポーツー」、「(祭りなどの) 地域の伝統やー」の項目は、「当てはまらない」とする回答が約 30%に及んでいる。また、「青少年ー」は市民全体、子どもを持つ親ともに「当てはまらない」が30%を超えている。

【松本市の現状】



【市民の行動】



2) 今年度を実施した調査間の差

基本目標6「ともに学びあい人と文化を育むまち」において、第1回、第2回調査で、統計的有意差がみられた項目はなかった。

(7)行政について

本市では選択と集中による事業の効率化、重点化を進めるとともに、顧客主義や成果主義など市民の目線に立って、市民の負託に的確に応えられる行政をめざし、5つの方針のもと行政運営に取り組んでいる。

①経年での比較

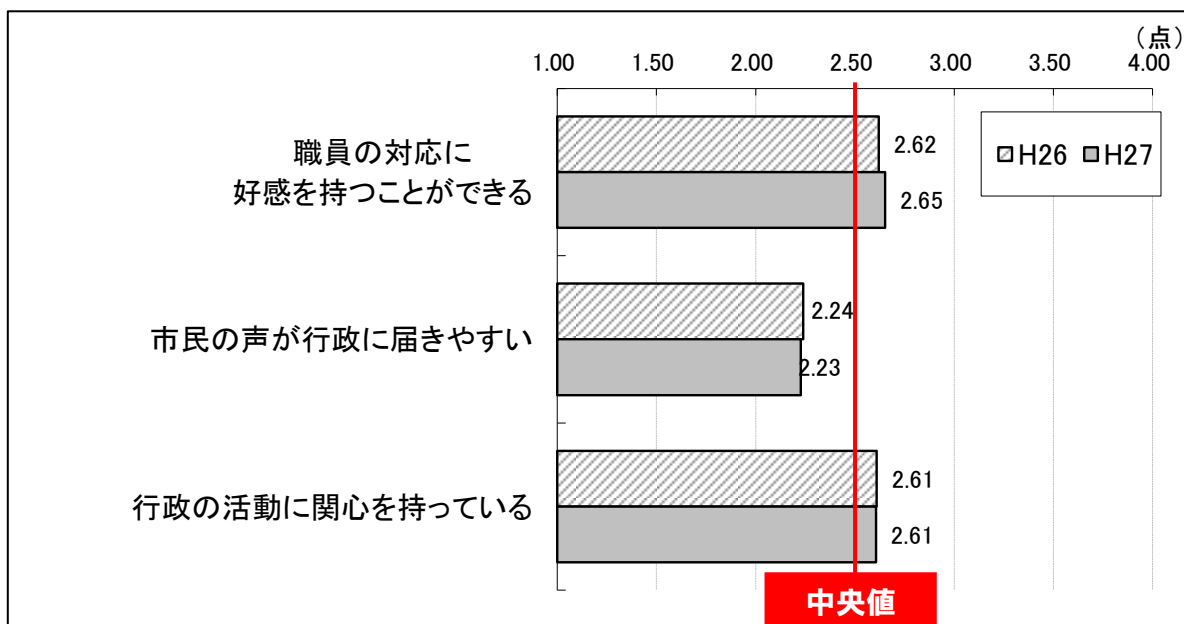
1) 平均点による経年比較

■評価結果■

- ・「行政について」の項目の中で、中央値 2.5 未満の項目は、「市民の声が行政にー」であり、平成 26 年度とほぼ同じ数値である。
- ・「行政の活動にー」、「職員の対応にー」は平成 26 年度と同じか、やや改善している。

方針	調査項目	平均点		
		H27 年	H26 年	差 H27-H26
方針 1 質の高い行政経営の実現	市民の声が行政に届きやすい	2.23	2.24	-0.01
	行政の活動に関心を持っている	2.61	2.61	0.00
方針 2 財政基盤の強化	極めて限定的な市民にしか回答できないため調査項目を設定しなかった			
方針 3 窓口サービスの充実	職員の対応に好感を持つことができる	2.65	2.62	0.03
方針 4 広報・広聴の充実	「広報について」に掲載			
方針 5 人材育成の推進	方針 3 に含む			

※ 平均点の網掛けは中央値 2.5 未満の項目



2) 評価保留の割合の経年比較

■評価結果■

- ・回答保留の割合は3項目ともに改善しており、中でも「市民の声が行政にー」は約4ポイント「わからない」と回答した者が減少している。ただし、依然として約25%の市民が「わからない」と回答しているため、今後も引き続き行政の情報提供や、市民からの意見への対応が見えるような取り組みを進める必要がある。

方針	調査項目	評価保留の割合 (%)		
		H27年	H26年	差 H27-H26
方針1 質の高い行政経営の実現	市民の声が行政に届きやすい	26.46	30.78	-4.32
	行政の活動に関心を持っている	9.02	9.44	-0.42
方針2 財政基盤の強化	極めて限定的な市民にしか回答できないため調査項目を設定しなかった			
方針3 窓口サービスの充実	職員の対応に好感を持つことができる	17.74	18.02	-0.28
方針4 広報・広聴の充実	「広報について」に掲載			
方針5 人材育成の推進	方針3に含む			

3) 市民全体と受益者の評価の経年比較

「行政について」では、受益者を限定する施策はない。

4) 「市の現状」と「市民の行動」の経年比較

「行政について」では、「市の現状」と「市民の行動」の両方を設定した項目はない。

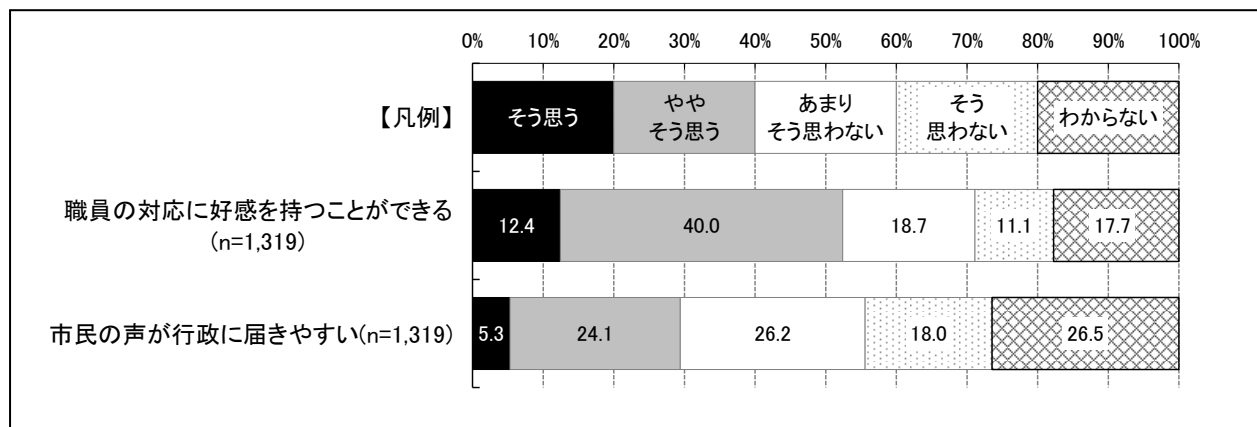
②今年度調査結果

1) 評価施策別度数分布

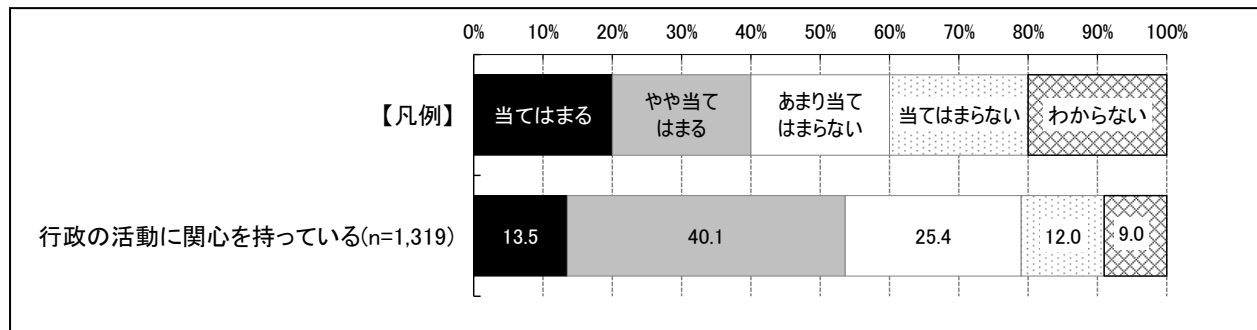
■評価結果■

- ・「職員の対応にー」、「行政の活動に関心ー」の項目では、約半数の市民が肯定的に評価している。
- ・「市民の声が行政にー」は、約3割の市民が肯定的評価であるが、約4割の市民は否定的評価であり、回答保留も約3割となっている。行政に市民の声が届いていると感じている市民がまだ少ない状況であるといえる。

【松本市の現状】



【市民の行動】



2) 今年度実施した調査間の差

「行政について」において、第1回、第2回調査で、統計的有意差がみられた項目はなかった。

5. 総合的な満足度と居住継続意向に対する評価結果

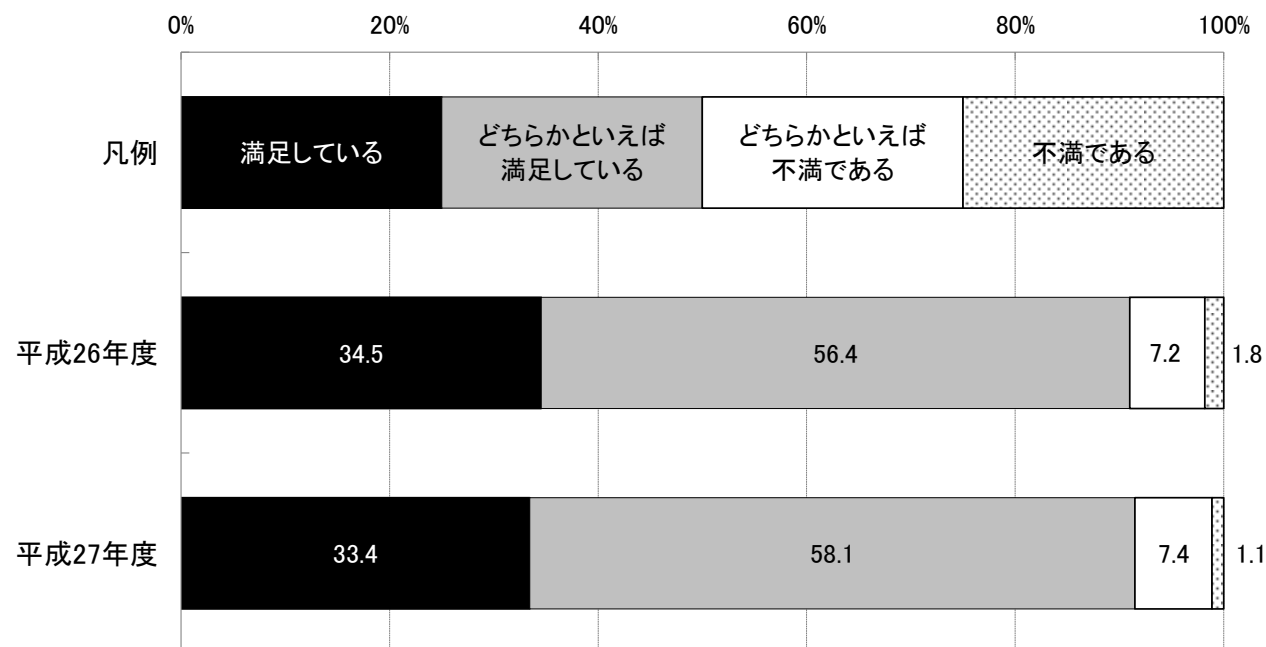


(1)松本市での暮らしに対する満足度

■評価結果■

- ・松本市での暮らしに対する満足度は、平成26年度とほぼ同様の傾向であり、全体の約90%が肯定的に評価している。
- ・性別ごとにみると、女性の方が肯定的な評価をしている割合がやや高い。
- ・年代別でみると、20代、30代は肯定的評価が80%台、40代以上では、90%台で推移している。70代以上は約40%が「満足している」と回答しており、年代があがるにつれて満足度が高くなっていることがわかる。

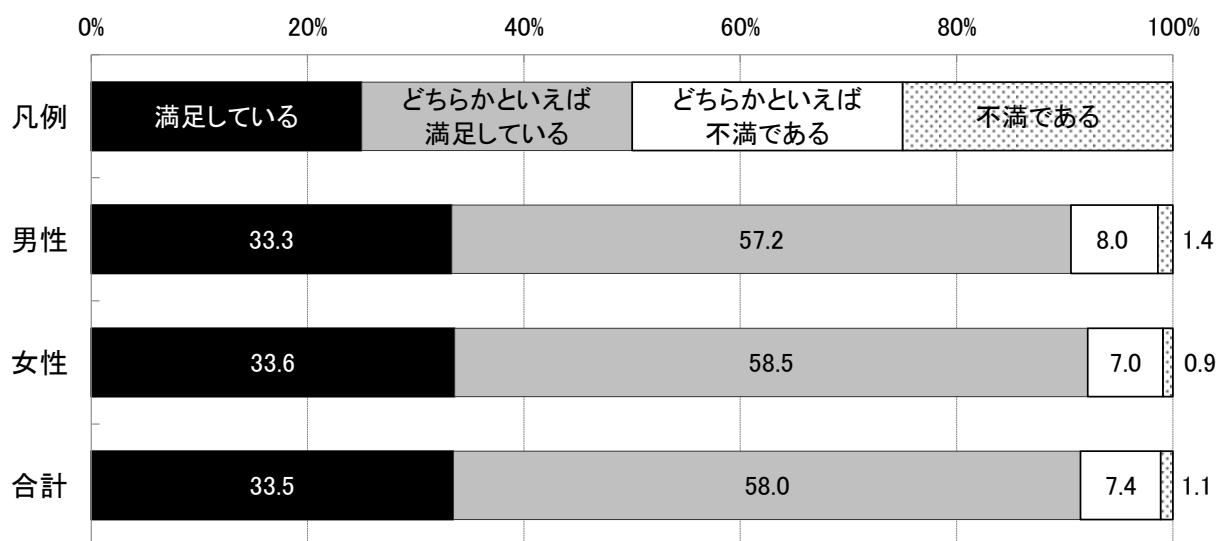
①経年での比較



		満足している	どちらかといえば満足している	どちらかといえば不満である	不満である	合計
平成26年度	回答数	416	680	87	22	1,205
	割合(%)	34.5	56.4	7.2	1.8	100.0
平成27年度	回答数	448	778	99	15	1,340
	割合(%)	33.4	58.1	7.4	1.1	100.0

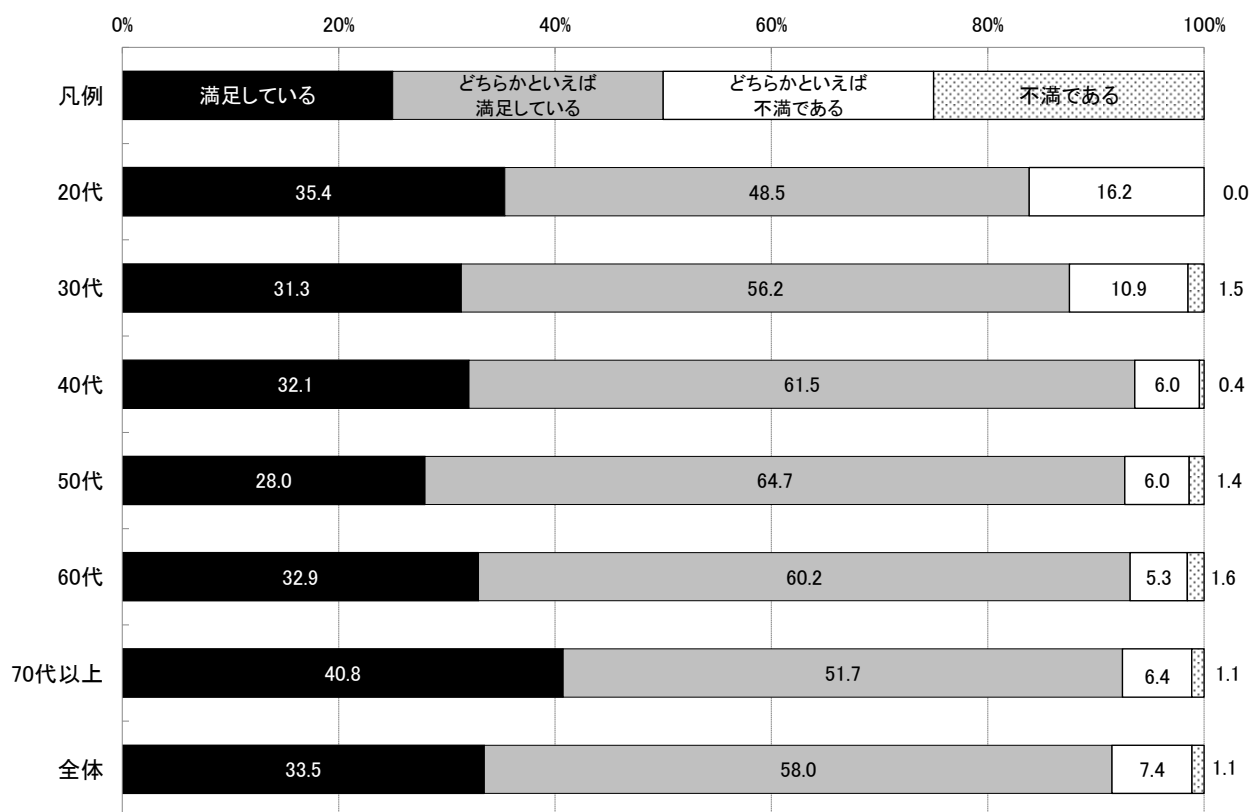
②今年度調査結果

1) 性別ごとの満足度



		満足している	どちらかといえば満足している	どちらかといえば不満である	不満である	合計
男性	回答数	191	328	46	8	573
	割合 (%)	33.3	57.2	8.0	1.4	100.0
女性	回答数	256	446	53	7	762
	割合 (%)	33.6	58.5	7.0	0.9	100.0
合計	回答数	447	774	99	15	1,335
	割合 (%)	33.5	58.0	7.4	1.1	100.0

2) 年代別満足度



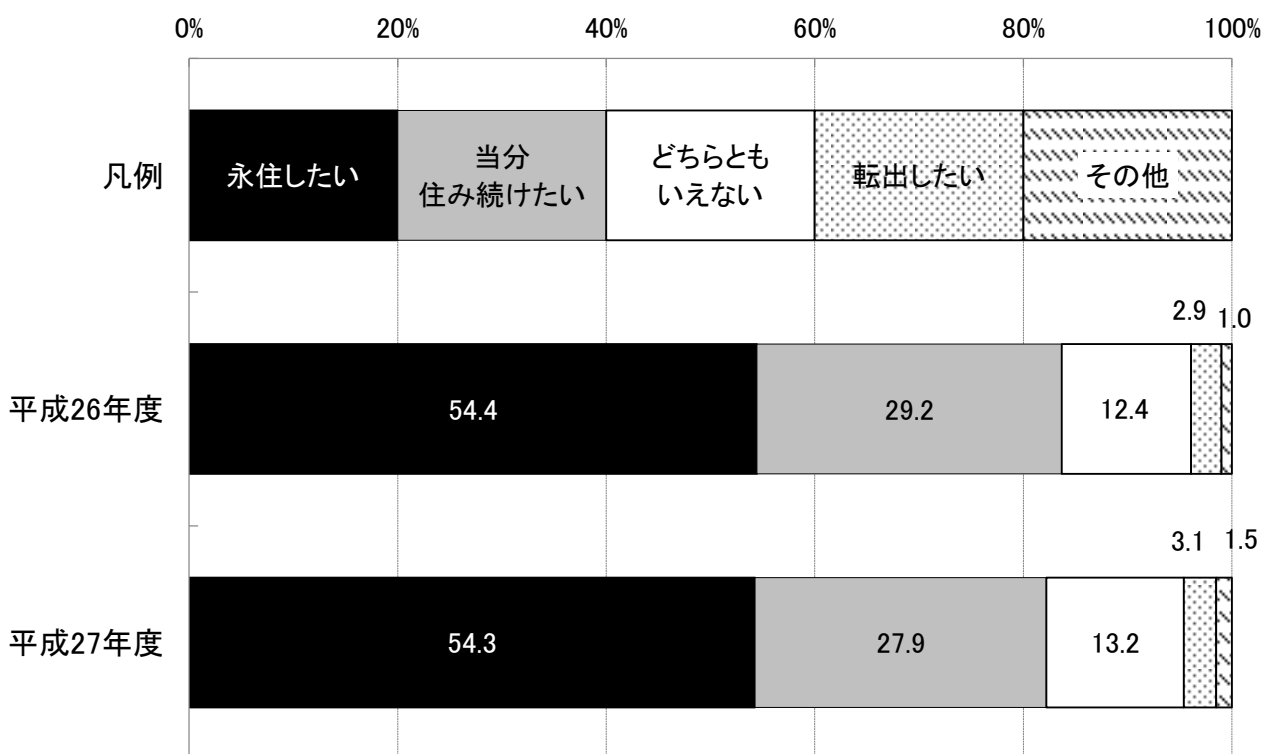
		満足している	どちらかといえば満足している	どちらかといえば不満である	不満である	合計
20代	回答数	35	48	16	0	99
	割合(%)	35.4	48.5	16.2	0.0	100.0
30代	回答数	63	113	22	3	201
	割合(%)	31.3	56.2	10.9	1.5	100.0
40代	回答数	75	144	14	1	234
	割合(%)	32.1	61.5	6.0	0.4	100.0
50代	回答数	61	141	13	3	218
	割合(%)	28.0	64.7	6.0	1.4	100.0
60代	回答数	106	194	17	5	322
	割合(%)	32.9	60.2	5.3	1.6	100.0
70代以上	回答数	108	137	17	3	265
	割合(%)	40.8	51.7	6.4	1.1	100.0
全体	回答数	448	777	99	15	1,339
	割合(%)	33.5	58.0	7.4	1.1	100.0

(2)松本市での将来的な居住継続意向

■評価結果■

- ・今後の居住意向を経年で比較すると、平成26年度と同様、約80%が住み続けたいとの意向を示している。わずかではあるが、「どちらともいえない」、「転出したい」とする割合が高くなっており、居住し続ける要因がないと、市外へ転出することも考えられる。
- ・性別別でみると、女性の方が継続した居住意向の割合がやや高い。ただし、明確に「転出したい」との意向を示している回答者も3.5%となっており、男性を上回っている。
- ・年代別でみると、年代があがるにつれて住み続けたいとする回答の割合が高くなっている。20代、30代では「転出したい」割合が5%以上となっており、若年層では転出意向が高くなっている。

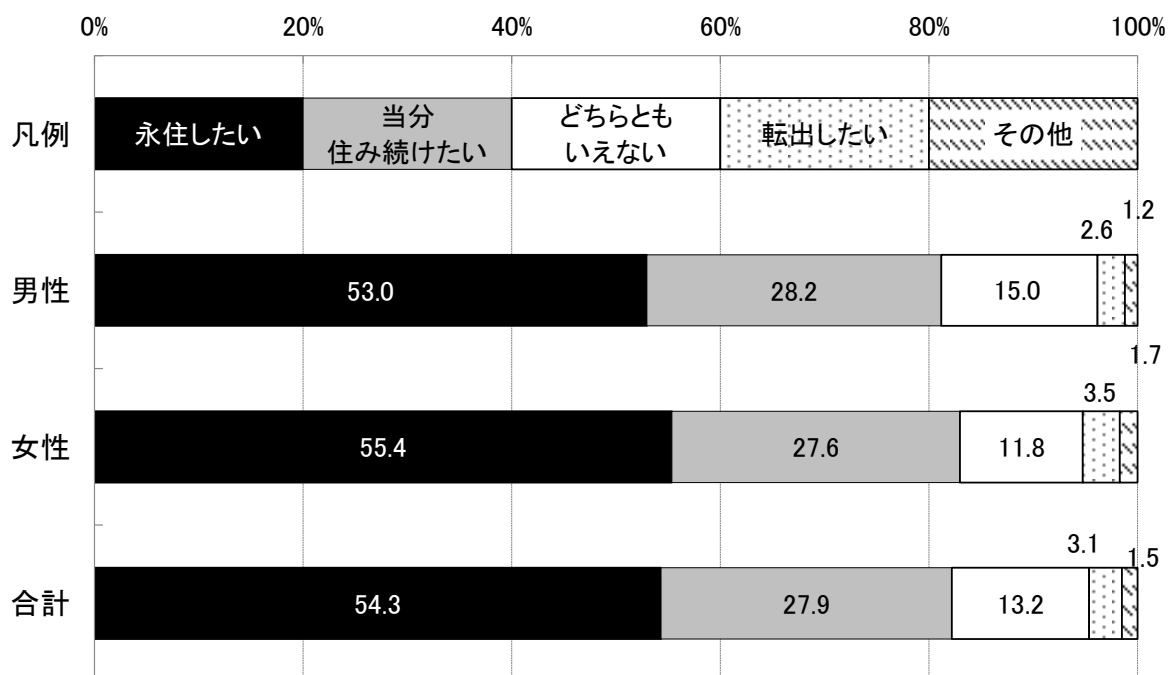
①経年での比較



		永住したい	当分住み続けたい	どちらともいえない	転出したい	その他	合計
平成26年度	回答数	656	352	150	35	12	1,205
	割合(%)	54.4	29.2	12.4	2.9	1.0	100.0
平成27年度	回答数	729	375	177	42	20	1,343
	割合(%)	54.3	27.9	13.2	3.1	1.5	100.0

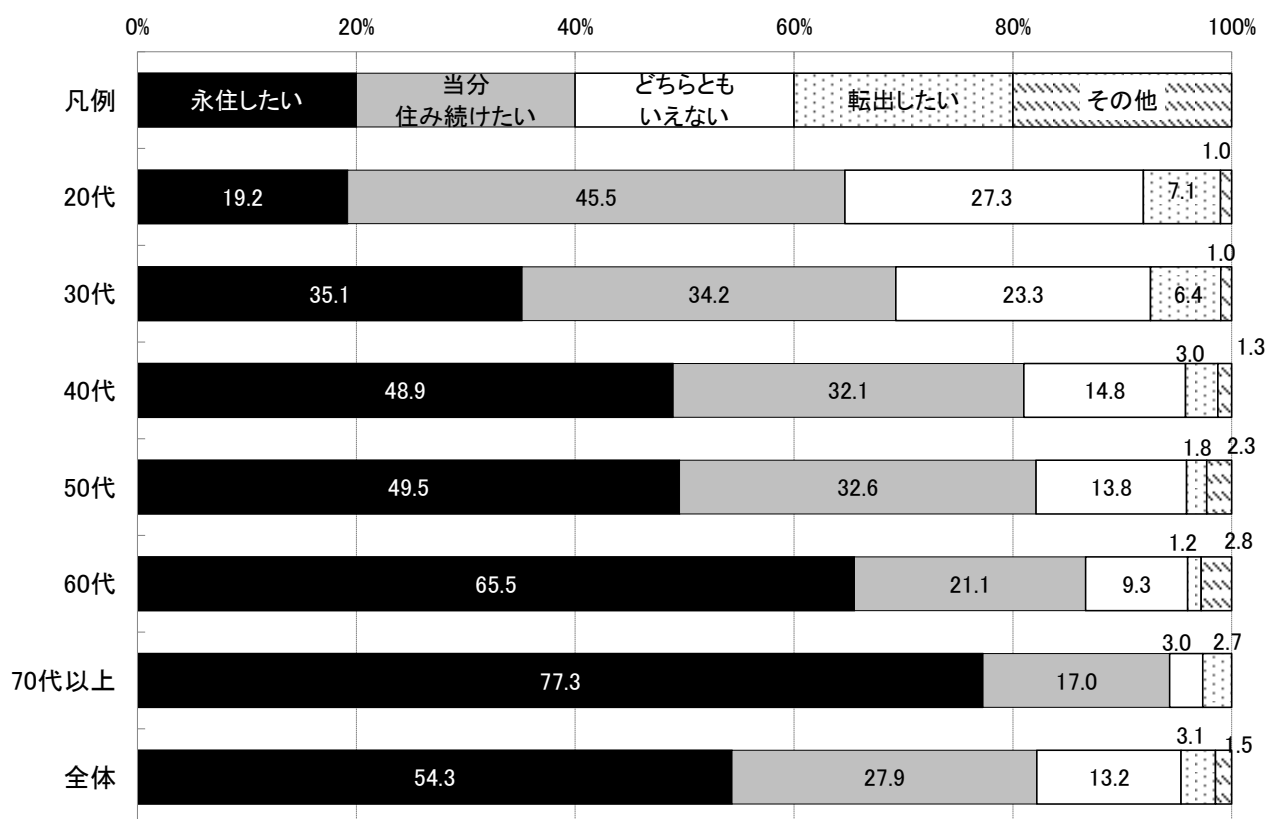
②今年度調査結果

1) 性別ごとの居住意向



		永住したい	当分 住み続けたい	どちらとも いえない	転出したい	その他	合計
男性	回答数	304	162	86	15	7	574
	割合 (%)	53.0	28.2	15.0	2.6	1.2	100.0
女性	回答数	423	211	90	27	13	764
	割合 (%)	55.4	27.6	11.8	3.5	1.7	100.0
全体	回答数	727	373	176	42	20	1,338
	割合 (%)	54.3	27.9	13.2	3.1	1.5	100.0

2) 年代別居住意向



		永住したい	当分住み続けたい	どちらともいえない	転出したい	その他	合計
20代	回答数	19	45	27	7	1	99
	割合(%)	19.2	45.5	27.3	7.1	1.0	100.0
30代	回答数	71	69	47	13	2	202
	割合(%)	35.1	34.2	23.3	6.4	1.0	100.0
40代	回答数	116	76	35	7	3	237
	割合(%)	48.9	32.1	14.8	3.0	1.3	100.0
50代	回答数	108	71	30	4	5	218
	割合(%)	49.5	32.6	13.8	1.8	2.3	100.0
60代	回答数	211	68	30	4	9	322
	割合(%)	65.5	21.1	9.3	1.2	2.8	100.0
70代以上	回答数	204	45	8	7	0	264
	割合(%)	77.3	17.0	3.0	2.7	0.0	100.0
全体	回答数	729	374	177	42	20	1,342
	割合(%)	54.3	27.9	13.2	3.1	1.5	100.0

6. 総括



(1)今年度調査における基本施策ごとの評価結果まとめ

基本施策ごとに、評価結果をまとめる。

調査項目	評価結果の特徴的な傾向
基本目標1 だれもが健康でいきいきと暮らすまちについて	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療・救急医療に関する項目は市の取り組みに一定の理解が得られている。また市民も継続した健康づくりに取り組んでいる。 ・「ストレスー」については、平成26年度も同様の傾向として回答保留が高く、これまで以上の広報が重要である。
基本目標2 一人ひとりが輝き大切にされるまちについて	<ul style="list-style-type: none"> ・平和や多文化共生への意識、障害者に関する取り組みについては、中央値を下回っている。中でも平和意識や障害者の生活環境の充実については、平成26年度より平均値が減少傾向にあり、一層の取り組みや、周知活動が必要である。 ・要介護者や障害者の同居者、子どもを持つ親など受益者は総じて市民全体の評価を上回っている。ただし、「出産や育児をー」については子どもを持つ親は市民全体の評価を下回っている。 ・回答保留の割合が高い項目が多く、受益者、当事者以外にも支援内容や取り組みについてさらに伝えていくことが求められる。
基本目標3 安全・安心で支えあいの心がつなぐまちについて	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動を実際に行っている「市民の行動」に関する評価が低い傾向がある。「市の現状」へは一定の評価がなされているため、活動の主体として市民を巻き込み、育てていくことを考える必要がある。 ・交通マナーは依然として、市の取り組みと市民意識とで大きなギャップがある。こうした事実を客観的に伝え、一人ひとりに求められていることへの理解促進を図る必要がある。
基本目標4 人にやさしい環境を保全し自然と共生するまちについて	<ul style="list-style-type: none"> ・環境保全や緑化の推進に関する市民の行動について、評価が低い傾向にある。平成26年度と同様の傾向であり、活動を促す啓発的な取り組みが一層求められる。
基本目標5 魅力と活力にあふれにぎわいを生むまちについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼすべての項目で平成26年度から平均値の改善が見られているが、「中心市街地へー」、「働く場を確保ー」は依然として中央値を下回っている。 ・「働く場を確保ー」については、約30%が回答保留である傾向に変化はなく、取り組みの強化や周知の工夫が必要である。
基本目標6 とともに学びあい人と文化を育むまちについて	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てに関しては、市の取り組みに一定の評価がなされているが、市民の行動としては中央値を下回っている。 ・子育て、生涯学習施設の整備については、回答保留の割合が依然として高く、広報方法の工夫などこれまで以上の周知活動が求められる。
行政について	<ul style="list-style-type: none"> ・「市民の声が行政にー」は依然として低い。 ・「市民の声が行政にー」、「職員の対応にー」は、回答保留の割合が多く、行政と市民との関係にまだ距離があるといえる。
満足度・居住継続傾向	<ul style="list-style-type: none"> ・年代が上がるにつれて、市での暮らしに対する満足度、居住継続意向が高まっている。

(2)経年の調査結果を踏まえた総括

過去の調査結果も踏まえて、総括を行う。

①過去4年間の調査結果との比較

平成24年度から実施している本調査の結果を比較し、各項目の傾向を把握する。

◆ 平均値の推移

■ 比較結果 ■

- ・ 松本市の現状、市民の行動ともに過去4年間の結果に大きな傾向の変化は見られない。
- ・ 市の現状の項目で、平均点の減少傾向が見られるのは、「戦争の悲惨さやー」、「高齢者が安心してー」、「障害者が安心してー」、「市街地に花や緑がー」、「行政が積極的にー」、「知人や友人にすすめたい観光地ー」である。高齢者や障害者の生活環境、自然環境は市民の生活に密接であるため、今後特に取り組みの強化や周知を図る必要がある。
- ・ 平均点の増加が顕著に見られる項目は、「地域による自主的な防災活動ー」、「働く場を確保ー」、「小中学生が学校や地域でー」である。ただし「働く場を確保ー」については継続して中央値2.5以下となっており、改善に至っているとはいえない状況である。
- ・ 市民の行動で平均値が減少している項目は、「災害に対する備えー」、「ごみの資源化やー」、「行政の活動に関心ー」である。
- ・ 平均値が増加している項目は、「省エネ機器ー」、「継続的にスポーツー」である。

【松本市の現状】

基本施策 番号	調査項目	平均値				
		H24	H25	H26	H27	差 H27-H26
1-1-1	健康について考え、実践できる環境がある	3.02	3.08	2.98	2.99	0.01
1-1-2	ストレスや悩みを抱えたとき、相談できる所がある	2.47	2.56	2.45	2.45	0.00
1-2-1	日常生活において、必要な医療を受けることができる	3.54	3.59	3.55	3.51	-0.04
1-2-2	夜間、休日時に必要な医療を受けることができる	3.36	3.37	3.34	3.33	-0.01
2-1-1	戦争の悲惨さや平和の尊さを伝えるなど、平和について考える取り組みが行われている地域である	2.58	2.53	2.52	2.40	-0.12
2-1-2	市民が互いの個性や立場を尊重し合える地域である	2.65	2.61	2.62	2.63	0.01
2-1-3	外国人住民の生活スタイルや文化を理解し、交流が進んでいる地域である	2.48	2.47	2.40	2.47	0.07
2-2-1	高齢者が安心して生活していける地域である 【要介護者の同居者】高齢者が安心して生活していける地域である	2.76	2.78	2.73	2.60	-0.13
2-2-2	障害者が安心して生活していける地域である 【障害者の同居者】障害者が安心して生活していける地域である	2.78	2.93	2.76	2.68	-0.08
2-3-1	出産や育児を支えるための環境やサービスが充実している	2.62	2.66	2.55	2.49	-0.06
2-3-2	【子どもを持つ親】出産や育児を支えるための環境やサービスが充実している 【入園前親】出産や育児を支えるための環境やサービスが充実している	2.70	2.67	2.56	2.56	0.00
2-3-3	安心して子どもを預けることができる保育園・幼稚園がある 【幼稚園・保育園の持つ親】安心して子どもを預けることができる保育園・幼稚園がある	2.61	2.71	2.57	2.58	0.01
3-1-1	地域団体やボランティア団体による地域活動が行われている	2.61	2.74	2.60	2.51	-0.09
3-1-2	地域住民による支えあいが行われている	2.86	2.87	2.58	2.64	0.06
3-1-3	地域による自主的な防災活動が行われている	2.99	3.07	3.05	2.99	-0.06
3-1-4	地域による自主的な防犯活動が行われている	3.20	3.19	3.23	3.11	-0.12
3-2-1	災害情報を提供する体制が整っている	3.02	3.06	3.03	3.04	0.01
3-2-2	防災・減災の備えが整っている	2.71	2.72	2.70	2.69	-0.01
3-3-1	農地や自然とのバランスのとれた都市開発が行われている	2.98	3.01	3.02	3.05	0.03
3-3-2	生活道路を使った市内の移動がしやすい	2.68	2.68	2.68	2.64	-0.04
3-3-3	主要道路を使った市内外の移動がしやすい	2.47	2.58	2.62	2.61	-0.01
3-3-3	歩行者が安全に移動できる	2.56	2.62	2.64	2.62	-0.02
3-3-3	自転車で安全に移動できる	2.63	2.60	2.63	2.61	-0.02
3-3-3	市民の交通マナーが向上している	2.42	2.40	2.42	2.39	-0.03
3-3-4	市民がすすんで公共交通を利用している	2.38	2.36	2.41	2.34	-0.07
3-3-5	安全な水を利用することができる	2.14	2.14	2.13	2.14	0.01
4-1-3	市民がごみの資源化・分別をすることで減量に取り組んでいる	1.98	1.99	1.93	1.96	0.03
4-1-4	自然や環境を守るための活動が行われている	1.90	1.92	1.91	1.94	0.03
4-2-2	市街地に花や緑が増えてきている	1.78	1.77	1.73	1.75	0.02
4-3-1	悪臭や水、大気汚染などの問題がない地域である	3.49	3.52	3.52	3.56	0.04
4-3-3	歴史・伝統が感じられる松本らしい景観が保たれている	3.19	3.19	3.18	3.17	-0.01
4-3-4	まちなかが衛生的に保たれている	2.94	2.93	2.99	2.91	-0.08
5-1-3	行政が積極的に観光誘客に取り組んでいる	3.01	2.98	2.98	2.94	-0.04
5-1-4	働く場を確保する取り組みが行われている	3.22	3.25	3.26	3.33	0.07
5-2-1	知人や友人にすすめたい地元産の農産物が多い	2.96	2.95	2.86	2.97	0.11
5-2-2	個性やこだわりのある店舗が増えてきている	3.13	3.15	3.18	3.18	0.00
5-3-3	知人や友人にすすめたい観光地が多い	2.89	2.88	2.85	2.81	-0.04
6-1-1	小中学生が学校や地域で生きいきと生活している 【小中学校の親】小中学生が学校や地域で生きいきと生活している	2.00	2.01	2.04	2.13	0.09
6-1-2	充実した教育が受けられるような小中学校の教育環境が整っている 【小中学校の親】充実した教育が受けられるような小中学校の教育環境が整っている	3.03	3.02	2.97	2.99	0.02
6-1-3	地域で青少年(小中学生を含む)の自主性や主体性を育む活動が行われている 【子どもを持つ親】地域で青少年(小中学生を含む)の自主性や主体性を育む活動が行われている	2.75	2.74	2.71	2.72	0.01
6-2-2	趣味や学びを気軽に行える施設が充実している	3.19	3.16	3.14	3.11	-0.03
6-3-2	地域の伝統や文化の保存、継承が行われている	2.93	3.04	3.04	3.09	0.05
6-3-3	「城下町まつもと」にふさわしいまちづくりが行われている	2.93	3.05	3.06	3.04	-0.02
行政について	職員の対応に好感を持つことができる	2.86	2.98	2.97	3.05	0.08
行政について	市民の声が行政に届きやすい	2.77	2.88	2.87	2.87	0.00
		2.87	2.92	2.89	3.02	0.13
		2.85	2.88	2.81	2.90	0.09
		2.71	2.76	2.67	2.73	0.06
		3.02	3.00	2.97	2.99	0.02
		2.92	2.92	2.84	2.90	0.06
		2.62	2.63	2.62	2.65	0.03
		2.32	2.28	2.24	2.23	-0.01

※設問の文言は平成27年度調査のものを掲載

【市民の行動】

基本施策番号	調査項目	平均値				
		H24	H25	H26	H27	差 H27-H26
1-1-1	健康づくりに継続的に取り組んでいる	2.54	2.62	2.54	2.57	0.03
3-1-1	地域で行われている活動やボランティア活動に参加している	2.01	2.03	1.96	2.03	0.07
3-1-2	地域の人と積極的に関わりを持っている	2.38	2.41	2.40	2.38	-0.02
3-1-3	地域の自主的な防災活動に参加している	1.97	2.03	1.95	2.08	0.13
3-1-4	地域の自主的な防犯活動に参加している	1.74	1.81	1.75	1.80	0.05
3-2-2	災害に対する備えをしている	2.37	2.34	2.31	2.30	-0.01
3-3-3	交通マナーを意識しながら、移動をしている	3.40	3.45	3.42	3.44	0.02
3-3-4	すすんで公共交通を利用している	1.94	1.92	1.96	1.99	0.03
4-1-1	省エネ機器や太陽光発電など自然エネルギー機器を積極的に導入している	2.28	2.38	2.37	2.46	0.09
4-1-3	ごみの資源化や分別することで減量を行っている	3.47	3.32	3.32	3.30	-0.02
4-1-4	自然や環境を守るための活動を行っている	2.38	2.46	2.41	2.45	0.04
4-2-2	市街地の緑化活動を行っている	1.98	1.96	1.97	1.96	-0.01
5-1-2	中心市街地へ買物や食事、催事などで出かける機会が増えている	2.36	2.37	2.32	2.37	0.05
5-3-1	地元産の農産物を積極的に購入している	3.09	3.09	2.96	3.08	0.12
6-1-3	青少年(小中学生を含む)の自主性や主体性を育む活動を行っている	2.07	2.14	2.11	2.13	0.02
	【子どもを持つ親】青少年(小中学生を含む)の自主性や主体性を育む活動を行っている	2.35	2.30	2.20	2.21	0.01
6-2-1	趣味や学びを通じて、充実した日常生活を送っている	2.51	2.61	2.59	2.55	-0.04
6-2-3	継続的にスポーツに親しんでいる	2.29	2.35	2.32	2.38	0.06
6-3-1	音楽や芸術にふれている	2.43	2.47	2.46	2.47	0.01
6-3-2	(祭りなどの)地域の伝統や文化の保存、継承に取り組んでいる	2.23	2.23	2.20	2.22	0.02
行政について	行政の活動に関心を持っている	2.67	2.64	2.61	2.61	0.00

◆ 回答保留割合の推移

■ 比較結果 ■

- 市の現状で回答保留の割合が減少傾向にあるものは、「ストレスー」、「外国人住民のー」である。少しずつではあるが、市民に市の取り組みが伝わり、正当な評価がなされるようになりつつあるといえる。ただこの2項目は依然として約30%が回答保留としているため、継続的な活動が求められる。
- 市民の行動では、減少傾向にある項目は「地域の自主的な防災活動ー」であるが大きな変動ではなく、その他の項目でも経年で大きな変化はみられない。ただし、「青少年（小中学生を含む）の自主性や主体性を育む活動を行っている」は回答保留が増加傾向にあり、今年度では約20%となっている。活動を行っていないために、具体的に想像できず回答保留となっていることが考えられる。地域で行われている活動や市民としての関わり方が見えるようになると、参加の意欲が高まるとともに、活動が地域内で浸透していくと考えられる。地域コミュニティでの他の防災・防犯活動等とあわせて根付かせていくことが重要である。


【松本市の現状】

基本施策 番号	調査項目	わからないの割合				
		H24	H25	H26	H27	差 H27-H26
1-1-1	健康について考え、実践できる環境がある	14.2%	14.8%	15.6%	13.9%	-1.68%
1-1-2	ストレスや悩みを抱えたとき、相談できる所がある	27.8%	27.2%	27.6%	26.7%	-0.95%
1-2-1	日常生活において、必要な医療を受けることができる	1.9%	2.9%	3.5%	2.3%	-1.15%
1-2-2	夜間、休日時に必要な医療を受けることができる	6.1%	7.0%	7.2%	5.7%	-1.52%
2-1-1	戦争の悲惨さや平和の尊さを伝えるなど、平和について考える取り組みが行われている地域である	29.9%	31.5%	30.9%	28.3%	-2.63%
2-1-2	市民が互いの個性や立場を尊重し合える地域である	24.8%	26.3%	25.9%	27.5%	1.60%
2-1-3	外国人住民の生活スタイルや文化を理解し、交流が進んでいる地域である	36.9%	38.2%	36.6%	31.1%	-5.50%
2-2-1	高齢者が安心して生活していける地域である	22.1%	24.6%	24.8%	18.5%	-6.29%
	【要介護者の同居者】高齢者が安心して生活していける地域である	5.5%	11.5%	10.2%	10.1%	-0.08%
2-2-2	障害者が安心して生活していける地域である	30.0%	32.3%	31.2%	26.8%	-4.30%
	【障害者の同居者】障害者が安心して生活していける地域である	15.2%	15.4%	13.6%	11.2%	-2.47%
2-3-1	出産や育児を支えるための環境やサービスが充実している	31.9%	36.0%	35.0%	33.5%	-1.51%
	【子どもを持つ親】出産や育児を支えるための環境やサービスが充実している	9.2%	14.2%	14.2%	13.1%	-1.14%
2-3-2	【入園前親】出産や育児を支えるための環境やサービスが充実している	6.1%	3.7%	3.5%	3.4%	-0.12%
	安心して子どもを預けることができる保育園・幼稚園がある	27.0%	29.7%	30.5%	28.2%	-2.28%
2-3-3	【幼稚園・保育園の持つ親】安心して子どもを預けることができる保育園・幼稚園がある	1.7%	0.0%	1.4%	1.9%	0.54%
	地域団体やボランティア団体による地域活動が行われている	21.2%	19.8%	22.4%	19.8%	-2.53%
3-1-2	地域住民による支えあいが行われている	15.6%	15.2%	13.6%	15.4%	1.82%
3-1-3	地域による自主的な防災活動が行われている	13.9%	11.4%	13.5%	13.8%	0.37%
3-1-4	地域による自主的な防犯活動が行われている	16.6%	16.3%	17.0%	18.5%	1.48%
3-2-1	災害情報を提供する体制が整っている	19.4%	21.2%	21.2%	19.8%	-1.37%
3-2-2	防災・減災の備えが整っている	18.3%	19.9%	22.1%	19.3%	-2.76%
3-3-1	農地や自然とのバランスがとれた都市開発が行われている	17.0%	17.4%	19.0%	15.8%	-3.19%
3-3-2	生活道路を使った市内の移動がしやすい	2.0%	2.6%	3.6%	2.9%	-0.65%
3-3-2	主要道路を使った市内外の移動がしやすい	2.5%	2.8%	4.2%	2.8%	-1.38%
3-3-3	歩行者が安全に移動できる	3.2%	3.4%	4.0%	4.9%	0.89%
3-3-3	自転車で安全に移動できる	5.4%	6.5%	7.5%	7.6%	0.12%
3-3-3	市民の交通マナーが向上している	6.2%	8.5%	8.0%	8.1%	0.07%
3-3-4	市民がすすんで公共交通を利用している	12.9%	13.6%	14.2%	13.4%	-0.79%
3-3-5	安全な水を利用することができる	2.9%	2.7%	3.3%	2.7%	-0.60%
4-1-3	市民がごみの資源化・分別をすることで減量に取り組んでいる	6.0%	5.5%	7.5%	6.3%	-1.23%
4-1-4	自然や環境を守るための活動が行われている	17.1%	18.8%	19.0%	16.2%	-2.82%
4-2-2	市街地に花や緑が増えてきている	8.9%	9.8%	11.2%	9.1%	-2.08%
4-3-1	悪臭や水、大気汚染などの問題がない地域である	5.5%	4.4%	5.1%	4.9%	-0.20%
4-3-3	歴史・伝統が感じられる松本らしい景観が保たれている	6.7%	6.6%	9.0%	5.0%	-3.99%
4-3-4	まちなかが衛生的に保たれている	6.1%	5.9%	6.7%	5.1%	-1.66%
5-1-3	行政が積極的に観光誘客に取り組んでいる	13.5%	15.5%	14.6%	14.4%	-0.16%
5-1-4	働く場を確保する取り組みが行われている	28.3%	31.6%	32.4%	29.3%	-3.16%
5-2-1	知人や友人にすすめたい地元産の農産物が多い	6.3%	5.9%	8.9%	6.2%	-2.64%
5-2-2	個性やこだわりのある店舗が増えてきている	13.9%	15.2%	15.1%	14.7%	-0.40%
5-3-3	知人や友人にすすめたい観光地が多い	3.3%	3.9%	4.3%	3.8%	-0.43%
6-1-1	小中学生が学校や地域で生きいきと生活している	26.3%	25.1%	29.9%	28.1%	-1.82%
	【小中学校の親】小中学生が学校や地域で生きいきと生活している	2.8%	1.6%	6.5%	1.0%	-5.45%
6-1-2	充実した教育が受けられるような小中学校の教育環境が整っている	32.7%	31.0%	35.2%	31.4%	-3.73%
	【小中学校の親】充実した教育が受けられるような小中学校の教育環境が整っている	4.6%	5.7%	8.2%	3.1%	-5.04%
6-1-3	地域で青少年(小中学生を含む)の自主性や主体性を育む活動が行われている	32.2%	32.9%	36.3%	33.4%	-2.94%
	【子どもを持つ親】地域で青少年(小中学生を含む)の自主性や主体性を育む活動が行われている	19.3%	23.7%	26.3%	22.4%	-3.88%
6-2-2	趣味や学びを気軽に行える施設が充実している	20.9%	22.2%	22.0%	23.0%	0.98%
6-3-2	地域の伝統や文化の保存、継承が行われている	15.6%	16.3%	18.4%	19.2%	0.86%
6-3-3	「城下町まつもと」にふさわしいまちづくりが行われている	16.5%	16.7%	17.6%	18.4%	0.82%
行政について	職員の対応に好感を持つことができる	15.7%	15.6%	18.0%	17.7%	-0.28%
行政について	市民の声が行政に届きやすい	29.0%	28.3%	30.8%	26.5%	-4.32%

【市民の行動】

基本施策番号	調査項目	わからないの割合				
		H24	H25	H26	H27	差 H27-H26
1-1-1	健康づくりに継続的に取り組んでいる	3.6%	2.8%	2.9%	3.4%	0.48%
3-1-1	地域で行われている活動やボランティア活動に参加している	4.1%	3.3%	3.6%	3.3%	-0.26%
3-1-2	地域の人と積極的に関わりを持っている	3.2%	2.4%	2.3%	2.6%	0.33%
3-1-3	地域の自主的な防災活動に参加している	4.1%	3.9%	3.5%	3.3%	-0.19%
3-1-4	地域の自主的な防犯活動に参加している	5.0%	5.4%	5.0%	4.7%	-0.37%
3-2-2	災害に対する備えをしている	2.0%	2.5%	2.0%	2.4%	0.45%
3-3-3	交通マナーを意識しながら、移動をしている	1.1%	1.7%	0.6%	0.8%	0.23%
3-3-4	すすんで公共交通を利用している	2.0%	2.1%	1.9%	2.0%	0.09%
4-1-1	省エネ機器や太陽光発電など自然エネルギー機器を積極的に導入している	3.8%	4.1%	4.5%	4.9%	0.32%
4-1-3	ごみの資源化や分別することで減量を行っている	0.8%	1.1%	1.8%	1.6%	-0.20%
4-1-4	自然や環境を守るための活動を行っている	5.4%	6.4%	7.7%	5.9%	-1.82%
4-2-2	市街地の緑化活動を行っている	7.1%	7.8%	8.1%	8.7%	0.63%
5-1-2	中心市街地へ買物や食事、催事などで出かける機会が増えてきている	1.4%	1.9%	1.6%	2.2%	0.59%
5-3-1	地元産の農産物を積極的に購入している	2.2%	3.0%	1.7%	2.0%	0.36%
6-1-3	青少年(小中学生を含む)の自主性や主体性を育む活動を行っている	16.7%	20.1%	20.9%	21.4%	0.55%
	【子どもを持つ親】青少年(小中学生を含む)の自主性や主体性を育む活動を行っている	7.6%	11.1%	12.0%	11.0%	-0.98%
6-2-1	趣味や学びを通じて、充実した日常生活を送っている	6.7%	6.6%	8.2%	8.4%	0.24%
6-2-3	継続的にスポーツに親しんでいる	4.6%	4.8%	6.7%	5.4%	-1.34%
6-3-1	音楽や芸術にふれている	4.7%	4.3%	5.4%	5.1%	-0.29%
6-3-2	(祭りなどの)地域の伝統や文化の保存、継承に取り組んでいる	7.2%	7.0%	9.0%	6.4%	-2.60%
行政について	行政の活動に関心を持っている	6.9%	8.7%	9.4%	9.0%	-0.42%

7. 若年層を対象とした暮らし・コミュニティ等に関する調査結果



(1)若年層を対象とした暮らし・コミュニティ等に関する調査結果

①若年層を対象とした調査項目について

今年度、20～39歳を対象に、暮らし・地域コミュニティ、結婚・出産・子育て、仕事等に関する内容を把握する設問を設定した。経年調査の結果からみても、若年層は市での暮らしの満足度が他年代と比較して低い傾向にあり、若年層の日々の暮らしやコミュニティとの関わり等の状況を把握することで、若年層にも住みやすく、また住み続けたいと思われる施策の検討に活用していく。

②調査結果

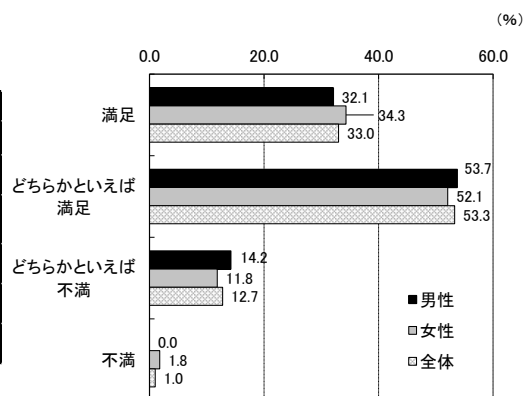
1) 暮らし・地域コミュニティについて

■評価結果■

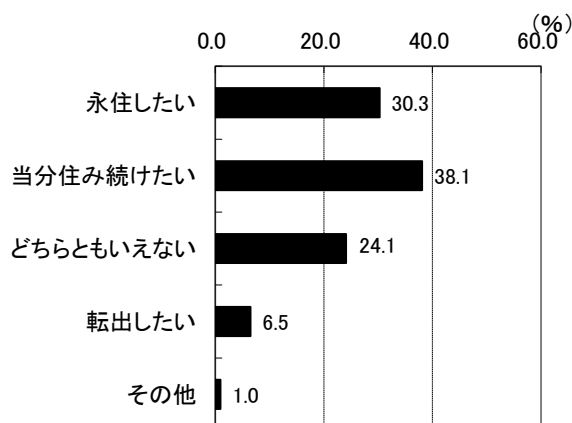
- ・若年層の松本市での暮らしの満足度は、約85%が肯定的な評価を行っている。性別で見ると、女性の方が「満足している」と回答する割合が男性よりもやや高い。
- ・松本市での居留意向は、「当分住み続けたい」が約4割で最多であり、「永住したい」とあわせると約7割が継続した居留意向を示している。
- ・市外からの転入者が46%で半数近くが市外出身者であることがわかる。そうした中で、暮らしの中での孤独感は市外出身者が市内出身者よりも強く感じており、47.5%に達している。また、生活の中で困ったときに頼れる人がいないとする回答は、市内出身者は約10%なのに対して市外出身者は約30%にのぼっている。

(ア) 松本市での暮らしの満足度・居留意向

	男性		女性		全体	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
満足している	43	32.1	58	34.3	101	33.0
どちらかといえば満足	72	53.7	88	52.1	163	53.3
どちらかといえば不満	19	14.2	20	11.8	39	12.7
不満である	0	0.0	3	1.8	3	1.0
合計	134	100.0	169	100.0	306	100.0



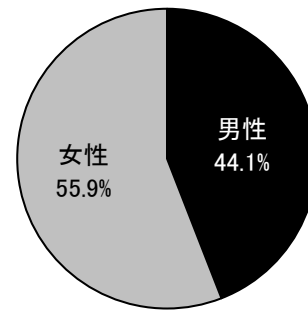
	人数	割合(%)
永住したい	93	30.3
当分住み続けたい	117	38.1
どちらともいえない	74	24.1
転出したい	20	6.5
その他	3	1.0
合計	307	100.0



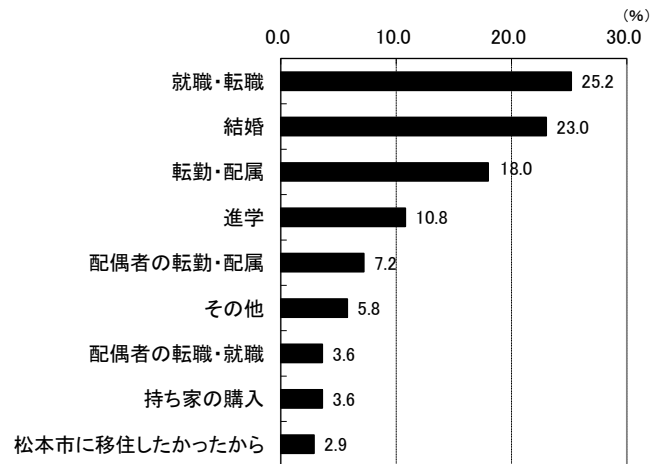
(イ) 出身地と転入のきっかけ

・ 出身地

	人数	割合(%)
松本市	163	54.0
松本市外	139	46.0
合計	302	100.0



	人数	割合(%)
就職・転職	35	25.2
結婚	32	23.0
転勤・配属	25	18.0
進学	15	10.8
配偶者の転勤・配属	10	7.2
その他	8	5.8
配偶者の転職・就職	5	3.6
持ち家の購入	5	3.6
松本市に移住したかったから	4	2.9
合計	139	100.0

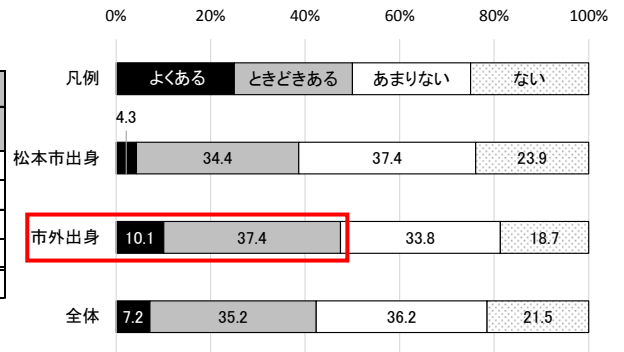


・ 転入のきっかけ

(ウ) 日常でのコミュニティについて

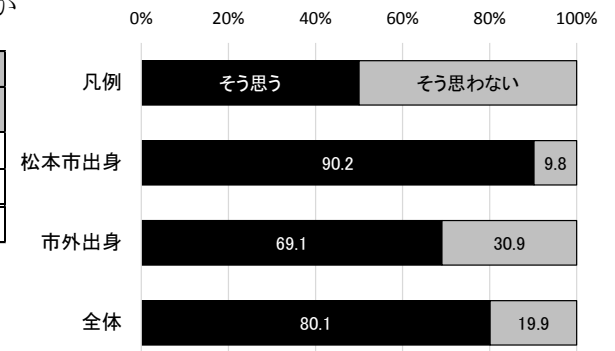
・ 生活の中で孤独感を感じるか

	松本市出身		市外出身		全体	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
よくある	7	4.3	14	10.1	22	7.2
ときどきある	56	34.4	52	37.4	108	35.2
あまりない	61	37.4	47	33.8	111	36.2
ない	39	23.9	26	18.7	66	21.5
合計	163	100.0	139	100.0	307	100.0



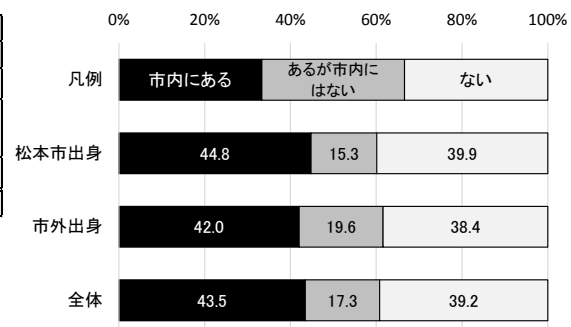
・ 急病や災害時等困ったときに頼れる人が身近にいるか

	松本市出身		市外出身		全体	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
そう思う	147	90.2	96	69.1	246	80.1
そう思わない	16	9.8	43	30.9	61	19.9
合計	163	100.0	139	100.0	307	100.0



- ・ 家や職場以外で、居心地が良いと感じる居場所はあるか

	松本市出身		市外出身		全体	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
市内にある	73	44.8	58	42.0	133	43.5
あるが市内にはない	25	15.3	27	19.6	53	17.3
ない	65	39.9	53	38.4	120	39.2
合計	163	100.0	138	100.0	306	100.0



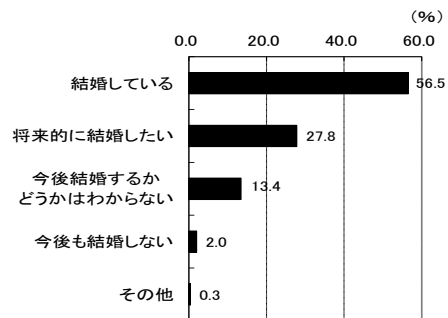
2) 結婚・出産・子育てについて

■評価結果■

- ・既婚者は全体の約 55%、結婚意向を示している者は約 30%であった。
- ・子どもの人数は、性別、既婚・未婚別、就労状態別のいずれでも、理想より最終的に持つ予定の人数が少なくなっている。
- ・希望する子どもを産み、育てるために必要なこととして、男女とも「経済的な課題の解消」が最多であげられている。女性は「職場の子育てに対する理解促進」、「柔軟な働き方を容認する職場」も次いであげられており、働く意向がある人が継続して働きながら子育てできる環境の促進が一層求められる。

(ア) 結婚の状況と今後の意向

	人数	割合(%)
結婚している	173	56.5
将来的に結婚したい	85	27.8
今後結婚するかどうかはわからない	41	13.4
今後も結婚しない	6	2.0
その他	1	0.3
合計	306	100.0



(イ) 理想とする子どもの人数と最終的に持つ予定の子どもの人数

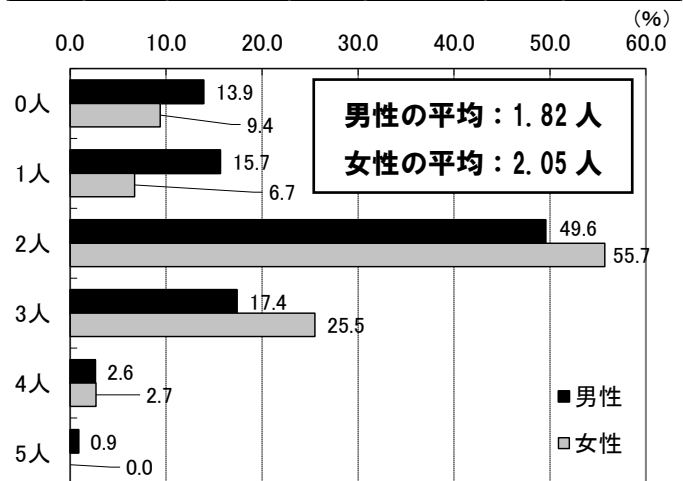
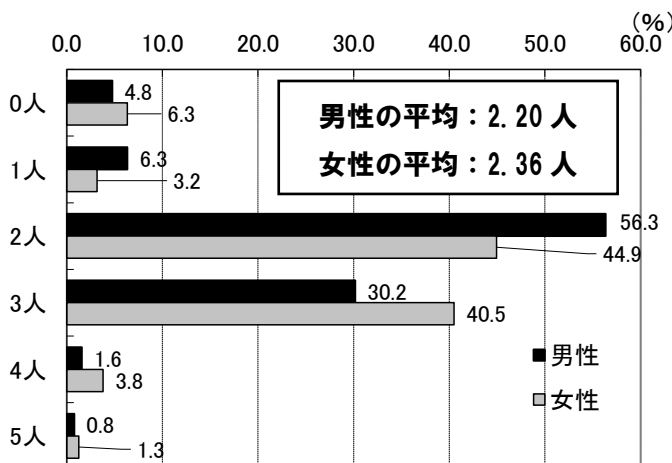
- ・性別ごと

【理想とする人数】

	男性		女性		全体	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
0人	6	4.8	10	6.3	16	5.6
1人	8	6.3	5	3.2	13	4.5
2人	71	56.3	71	44.9	144	50.2
3人	38	30.2	64	40.5	103	35.9
4人	2	1.6	6	3.8	8	2.8
5人	1	0.8	2	1.3	3	1.0
合計	126	100.0	158	100.0	287	100.0

【最終的に持つ予定の人数】

	男性		女性		全体	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
0人	16	13.9	14	9.4	30	11.2
1人	18	15.7	10	6.7	28	10.5
2人	57	49.6	83	55.7	143	53.6
3人	20	17.4	38	25.5	58	21.7
4人	3	2.6	4	2.7	7	2.6
5人	1	0.9	0	0.0	1	0.4
合計	115	100.0	149	100.0	267	100.0



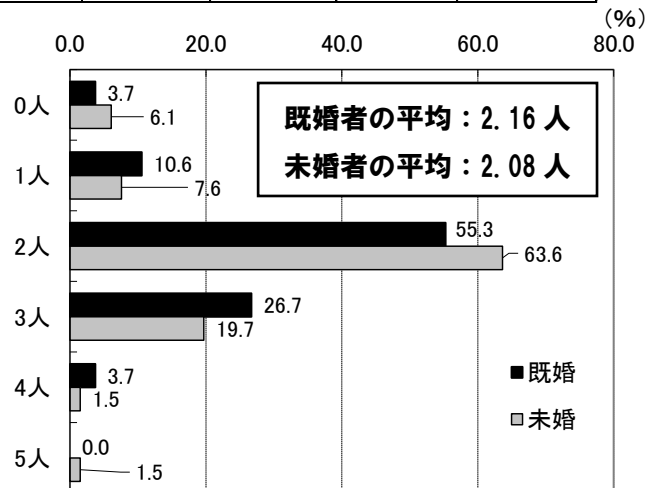
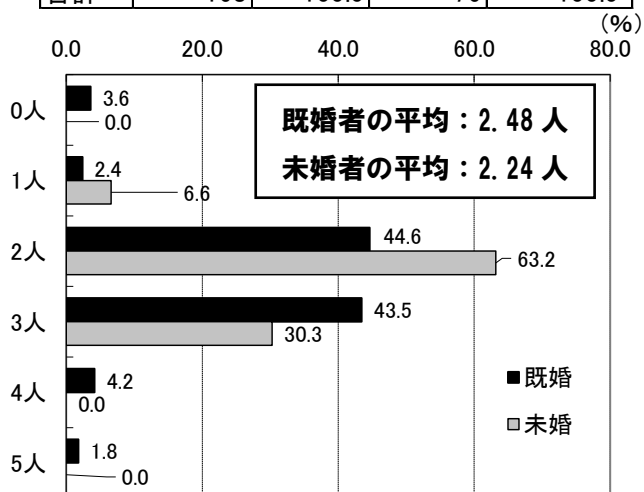
・ 結婚の状況別（未婚の結婚意向不明、結婚意向無しの回答者は除いている）

【理想とする人数】

	結婚している		将来的に結婚したい	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)
0人	6	3.6	0	0.0
1人	4	2.4	5	6.6
2人	75	44.6	48	63.2
3人	73	43.5	23	30.3
4人	7	4.2	0	0.0
5人	3	1.8	0	0.0
合計	168	100.0	76	100.0

【最終的に持つ予定の人数】

	結婚している		将来的に結婚したい	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)
0人	6	3.7	4	6.1
1人	17	10.6	5	7.6
2人	89	55.3	42	63.6
3人	43	26.7	13	19.7
4人	6	3.7	1	1.5
5人	0	0.0	1	1.5
合計	161	100.0	66	100.0



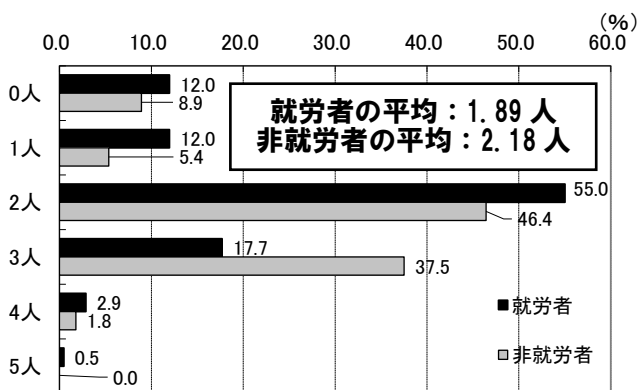
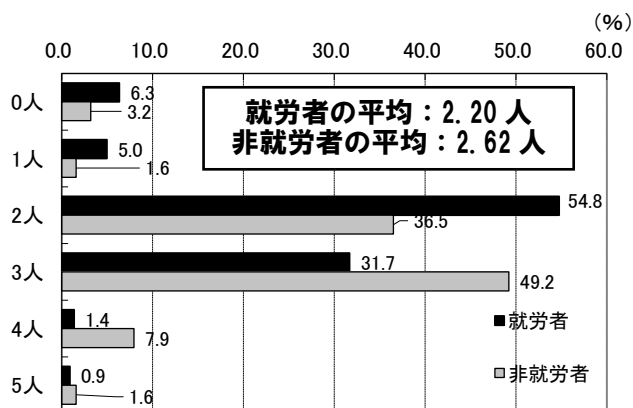
・ 就労状態別

【理想とする人数】

	就労者		非就労者	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)
0人	14	6.3	2	3.2
1人	11	5.0	1	1.6
2人	121	54.8	23	36.5
3人	70	31.7	31	49.2
4人	3	1.4	5	7.9
5人	2	0.9	1	1.6
合計	221	100.0	63	100.0

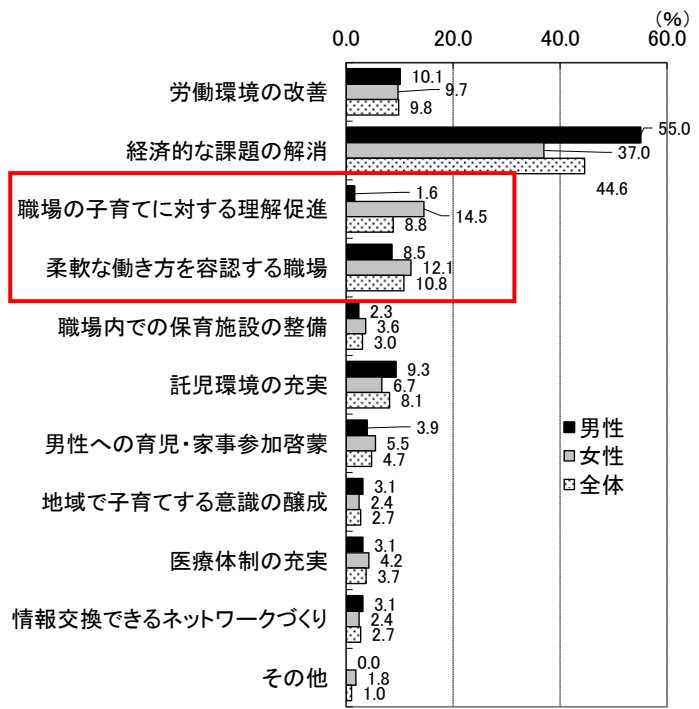
【最終的に持つ予定の人数】

	就労者		非就労者	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)
0人	25	12.0	5	8.9
1人	25	12.0	3	5.4
2人	115	55.0	26	46.4
3人	37	17.7	21	37.5
4人	6	2.9	1	1.8
5人	1	0.5	0	0.0
合計	209	100.0	56	100.0



(ウ) 希望する人数を産み、育てるために必要なこと

	男性	女性	全体
労働環境の改善	10.1	9.7	9.8
経済的な課題の解消	55.0	37.0	44.6
職場の子育てに対する理解促進	1.6	14.5	8.8
柔軟な働き方を容認する職場	8.5	12.1	10.8
職場内での保育施設の整備	2.3	3.6	3.0
託児環境の充実	9.3	6.7	8.1
男性への育児・家事参加啓蒙	3.9	5.5	4.7
地域で子育てする意識の醸成	3.1	2.4	2.7
医療体制の充実	3.1	4.2	3.7
情報交換できるネットワークづくり	3.1	2.4	2.7
その他	0.0	1.8	1.0
合計	100.0	100.0	100.0

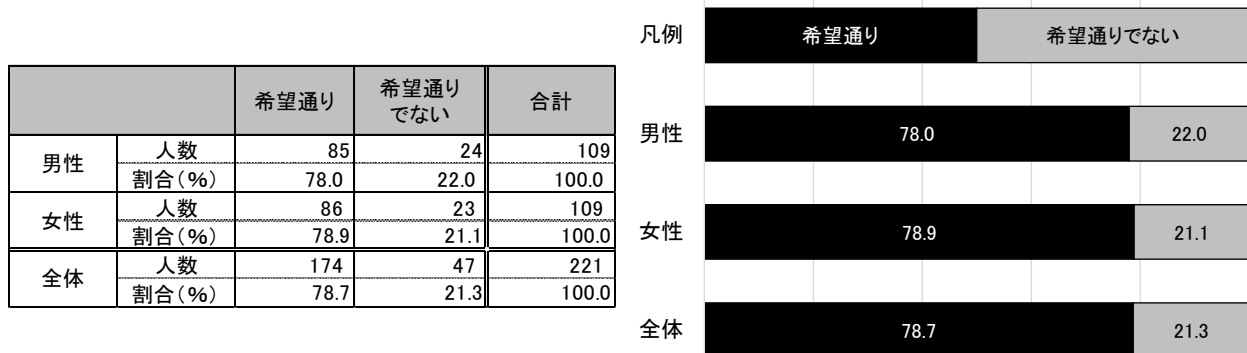
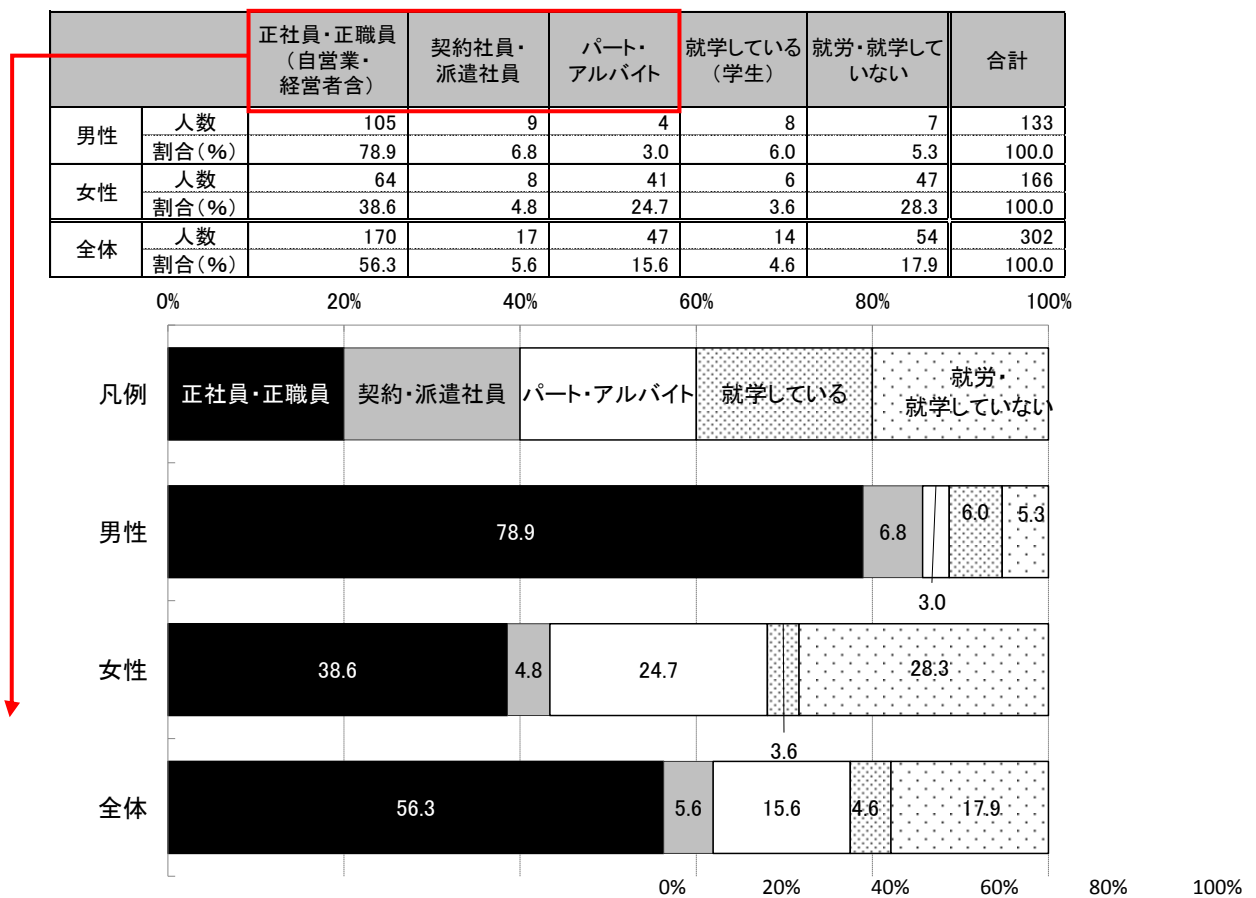


3) 仕事の状況について

■評価結果■

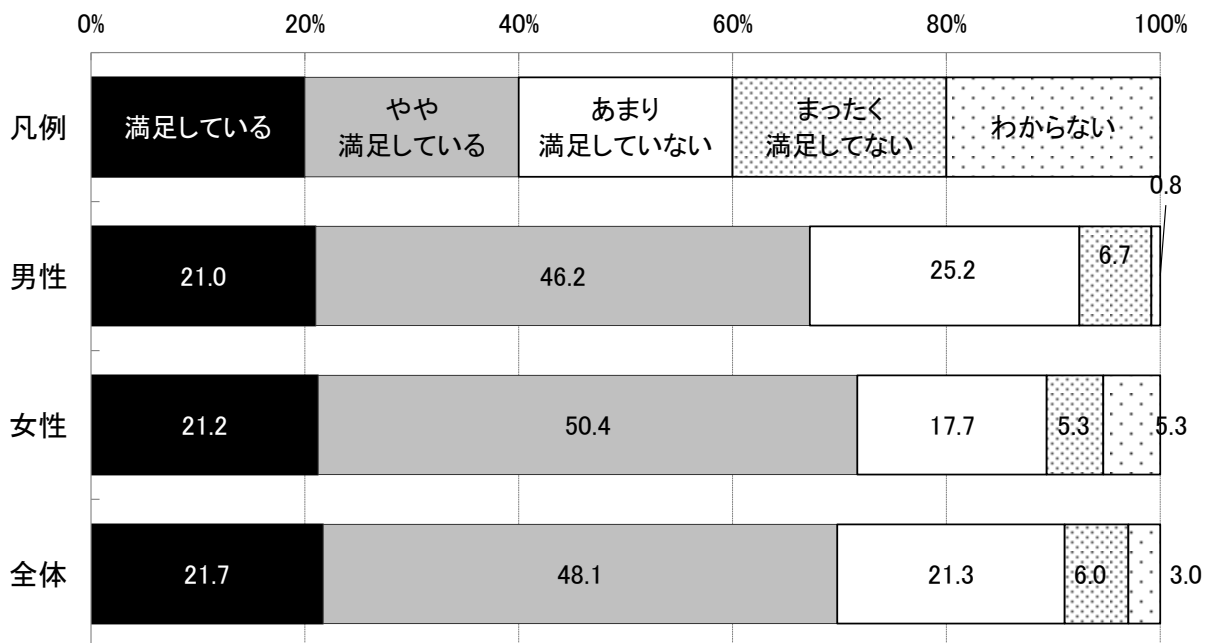
- ・男性は約90%、女性は約70%が就労している。男女とも就労者の8割は、希望にあった雇用形態であると回答している。また男女とも7割近くが、仕事に対して比較的満足している。
- ・仕事への不満も、約3割が「特に不満はない」と回答している。不満の内容として最も多くあげられたのは「給料・待遇」で男性では36%、女性では30%近くになっている。
- ・働く理由として最も多かったのは「生活のため」が男女とも60%以上となっている。女性では、「自分を成長させたいから」が12.5%で、男性よりも多い。仕事に対してモチベーションが高く、意欲的に取り組んでいることがうかがえる。仕事を継続することと、結婚、出産や子育てといった希望を実現させるための支援強化が必要である。

(ア) 就労状況・現在の雇用形態について



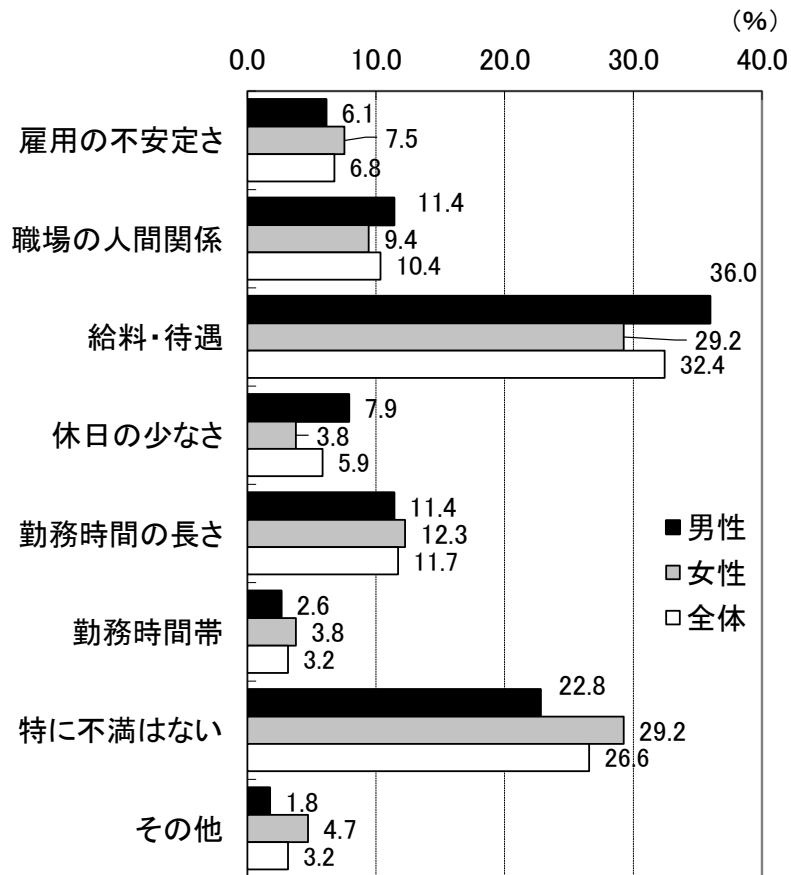
(ウ) 仕事の満足度

		満足している	やや満足している	あまり満足していない	まったく満足していない	わからない	合計
男性	人数	25	55	30	8	1	119
	割合(%)	21.0	46.2	25.2	6.7	0.8	100.0
女性	人数	24	57	20	6	6	113
	割合(%)	21.2	50.4	17.7	5.3	5.3	100.0
全体	人数	51	113	50	14	7	235
	割合(%)	21.7	48.1	21.3	6.0	3.0	100.0



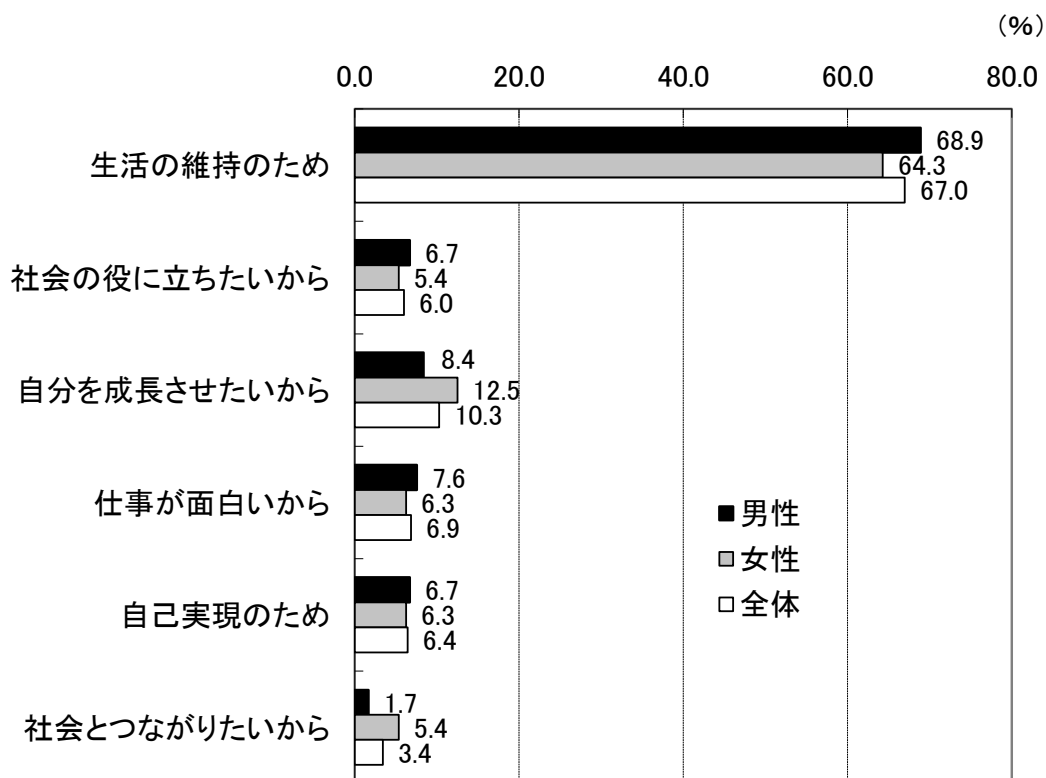
(エ) 仕事への不満

		雇用の不安定さ	職場の人間関係	給料・待遇	休日の少なさ	勤務時間の長さ	勤務時間帯	特に不満はない	その他	合計
男性	人数	7	13	41	9	13	3	26	2	114
	割合(%)	6.1	11.4	36.0	7.9	11.4	2.6	22.8	1.8	100.0
女性	人数	8	10	31	4	13	4	31	5	106
	割合(%)	7.5	9.4	29.2	3.8	12.3	3.8	29.2	4.7	100.0
全体	人数	15	23	72	13	26	7	59	7	222
	割合(%)	6.8	10.4	32.4	5.9	11.7	3.2	26.6	3.2	100.0



(オ) 働く理由

		生活の維持のため	社会の役に立ちたいから	自分を成長させたいから	仕事が面白いから	自己実現のため	社会とつながりたいから	合計
男性	人数	82	8	10	9	8	2	119
	割合(%)	68.9	6.7	8.4	7.6	6.7	1.7	100.0
女性	人数	72	6	14	7	7	6	112
	割合(%)	64.3	5.4	12.5	6.3	6.3	5.4	100.0
全体	人数	156	14	24	16	15	8	233
	割合(%)	67.0	6.0	10.3	6.9	6.4	3.4	100.0



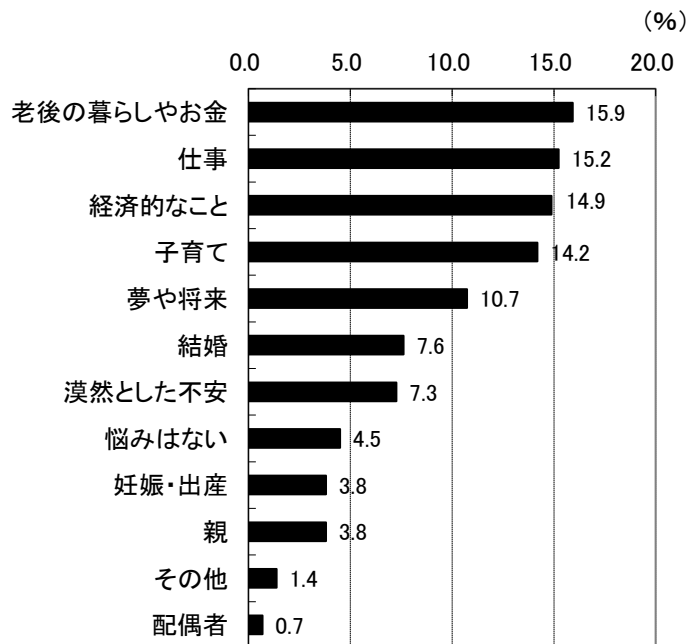
4) 考え方について

■評価結果■

- ・ 現在生活の中で悩んでいることは、「老後の暮らしやお金」、「仕事」、「経済的なこと」、「子育て」がほぼ同数であげられている。
- ・ 暮らしの中で大切にしていることは、「家族との時間」が半数近くで最多である。家族との暮らしを営む上で必要な経済的側面、子育て等が悩みとして多くあげられているといえる。

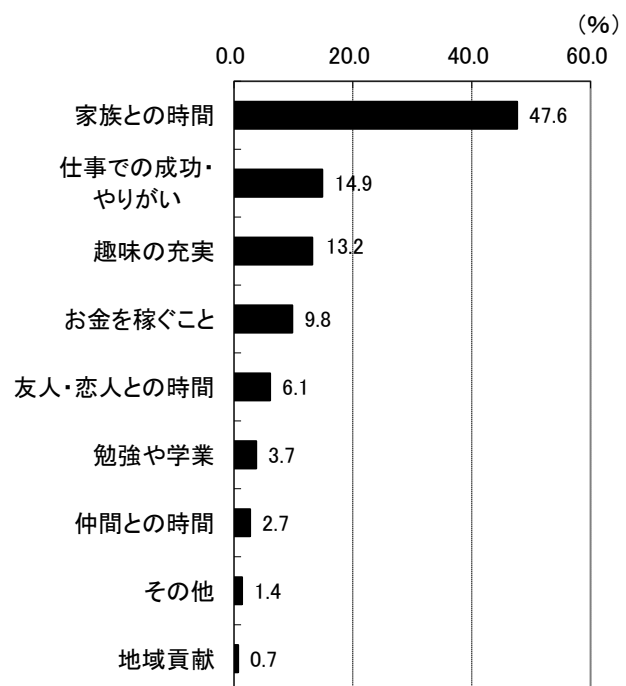
(ア) 現在、悩んでいること

	人数	割合(%)
老後の暮らしやお金	46	15.9
仕事	44	15.2
経済的なこと	43	14.9
子育て	41	14.2
夢や将来	31	10.7
結婚	22	7.6
漠然とした不安	21	7.3
悩みはない	13	4.5
妊娠・出産	11	3.8
親	11	3.8
その他	4	1.4
配偶者	2	0.7
合計	289	100.0



(イ) 暮らしの中で大切にしていること

	人数	割合(%)
家族との時間	141	47.6
仕事での成功・やりがい	44	14.9
趣味の充実	39	13.2
お金を稼ぐこと	29	9.8
友人・恋人との時間	18	6.1
勉強や学業	11	3.7
仲間との時間	8	2.7
その他	4	1.4
地域貢献	2	0.7
合計	296	100.0



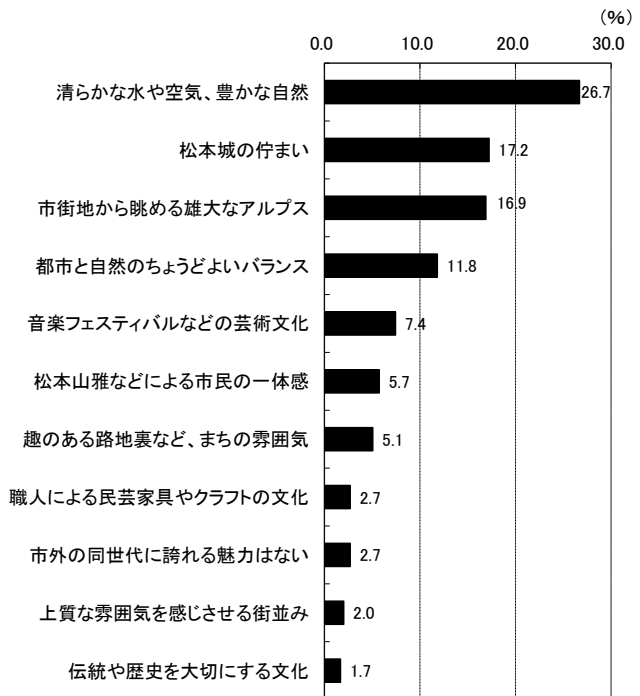
5) 松本市や行政について

■評価結果■

- ・同世代に誇れる市の魅力は、自然環境の項目（「清らかな水や空気、豊かな自然」、「雄大なアルプス」、「都市と自然のバランス」）が上位にあげられた。
- ・周囲からの支援やサポートに対する考え方と、行政への関心度合いの相互関係をみると、「行政からのサポート」、「行政・家族からのサポート」がそれぞれ必要であると考えている者の半数近くが行政への関心は低いと回答している。

(ア) 同世代に誇れる松本市の魅力

	人数	割合(%)
清らかな水や空気、豊かな自然	79	26.7
松本城の佇まい	51	17.2
市街地から眺める雄大なアルプス	50	16.9
都市と自然のちょうどよいバランス	35	11.8
音楽フェスティバルなどの芸術文化	22	7.4
松本山雅などによる市民の一体感	17	5.7
趣のある路地裏など、まちの雰囲気	15	5.1
職人による民芸家具やクラフトの文化	8	2.7
市外の同世代に誇れる魅力はない	8	2.7
上質な雰囲気を感じさせる街並み	6	2.0
伝統や歴史を大切にする文化	5	1.7
合計	296	100.0



(イ) 周囲からのサポートの考え方と「行政の活動に関心を持っているか」について

		そう思う	やや そう思う	あまり そう思わない	そう思わない	わからない	合計
自主独立	人数	2	7	11	5	7	32
	割合(%)	6.3	21.9	34.4	15.6	21.9	100.0
家族からの一定のサポート	人数	5	20	18	17	7	67
	割合(%)	7.5	29.9	26.9	25.4	10.4	100.0
行政からの一定のサポート	人数	0	8	6	3	3	20
	割合(%)	0.0	40.0	30.0	15.0	15.0	100.0
家族、行政からの一定のサポート	人数	14	61	59	33	12	179
	割合(%)	7.8	34.1	33.0	18.4	6.7	100.0

